

第4次旭川市障がい者計画策定のための市民アンケート調査について

1 調査の目的

第4次旭川市障がい者計画は、障害者基本法に定める市町村障害者計画であり、障がい者及び市民の意識・意向等を広く聴取し計画に反映させる必要があるため、アンケート調査を実施し、計画策定の基礎資料として活用する。

2 調査項目

(1) 障がい者共通

本人の状況、障がいの内容、生活状況、外出状況、仕事、地域生活、スポーツ等、相談、防災、障がいの理解を深めるための方策、差別・権利擁護、今後の取組、自由意見

(2) 障がい別

- ・未就学児及び小・中・高校生（身体・知的障がい者）
- ・病気や医療、障害児通所支援や特別支援学級、障がいや病気に対する理解（精神障がい者）

(3) 市民全般

本人の状況、障がいへの関心、ボランティア意識、ノーマライゼーション理念の普及度、障がいの理解を深めるための方策、差別・権利擁護、今後の取組

3 調査方法

- (1) 調査対象地域 旭川市全域
- (2) 調査対象者 各障害者手帳の所持者及び18歳以上の旭川市民 合計6,200人
- (3) 抽出方法
ア 各障害者手帳台帳から層化2段無作為抽出
イ 住民基本台帳から層化2段無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送調査法
- (5) 調査期間 令和2年4月6日から令和2年5月25日まで

4 回答結果

	発送数	有効回収数	回収率
a 身体障がい者	1,400	814	58.1%
b 知的障がい者	1,500	754	50.3%
c 精神障がい者	1,300	658	50.6%
d 18歳以上の市民	2,000	909	45.5%
合計	6,200	3,135	50.6%

5 集計結果の表し方

- (1) 構成比は、原則として各設問の有効回答者総数に対する百分率で表している。
- (2) また、構成比は、小数第2位を四捨五入して小数第1位まで算出しているため、構成比の合計は100.0%にならない場合がある。
- (3) 設問は回答を複数選ぶものがある。このため、複数の回答を求める設問では、構成

比の合計が 100.0%を超える場合がある。

障がい者アンケート（A）身体障がい者

1 回答者自身のことについて

問1 あなたの年齢を、お答えください。

回答者に年齢をたずねたところ、「70歳代」が33.7%で最も高く、次いで「80歳以上」が30.1%となっている。

項目	人数	構成比
10歳未満	4	0.5
10～19歳	4	0.5
20～29歳	12	1.5
30～39歳	18	2.2
40～49歳	34	4.2
50～59歳	63	7.8
60～69歳	158	19.5
70～79歳	273	33.7
80歳以上	244	30.1
合計	810	100.0

NA=4

問2 あなたの性別を、お答えください。

回答者に性別をたずねたところ、「女性」が52.1%、「男性」が47.9%となっている。

項目	人数	構成比
男性	389	47.9
女性	423	52.1
合計	812	100.0

NA=2

問3 あなたは誰と一緒に暮らしていますか。(あてはまるすべてに○)

一緒に住んでいる人をたずねたところ、「配偶者」が52.4%と最も高く、次いで「ひとりで暮らしている」が22.6%となっている。

n=809

項目	人数	構成比
ひとりで暮らしている	183	22.6
親	49	6.1
配偶者（夫または妻）	424	52.4
子ども	171	21.1
兄弟姉妹	15	1.9
祖父母	4	0.5
その他の親族	6	0.7
友人・知人	4	0.5
施設・グループホーム等の仲間	77	9.5
その他	11	1.4

NA=5

2 障がいの状態などについて

問4 あなたの障がいが発生（判明）した時期は、何歳ごろですか。

障がいが発生（判明）した時期をたずねたところ、「60～69歳」が20.4%で最も高く、次いで「50～59歳」が17.6%となっている。

項目	人数	構成比
出生時	60	7.7
19歳以下	80	10.2
20～29歳	26	3.3
30～39歳	36	4.6
40～49歳	65	8.3
50～59歳	138	17.6
60～69歳	160	20.4
70～79歳	125	15.9
80歳以上	34	4.3
不明	60	7.7
合計	784	100.0

NA=30

問5 あなたの障がいの主な原因は、何ですか。

障がいの主な原因をたずねたところ、「疾病」が55.4%で最も高く、次いで「不明」が13.7%となっている。

項目	人数	構成比
交通事故	18	2.3
労働災害	38	4.9
その他の事故	34	4.4
戦災・戦傷	0	0.0
自然災害	15	1.9
疾病	428	55.4
出生時の損傷	34	4.4
その他	100	12.9
不明	106	13.7
合計	773	100.0

NA=41

問6 身体障害者手帳の等級は、何級ですか。

身体障害者手帳の等級をたずねたところ、「1級」が30.5%で最も高く、次いで「4級」が22.5%となっている。

項目	人数	構成比
1級	236	30.5
2級	126	16.3
3級	110	14.2
4級	174	22.5
5級	73	9.4
6級	55	7.1
合計	774	100.0

NA=40

問7 身体障害者手帳の障がいの種類と等級について、お答えください。(あてはまるすべてに○)

身体障害者手帳の障がいの種類と等級についてたずねたところ、下表のとおりであった。

n=725

種類／等級	1	2	3	4	5	6	7	人数	構成比
視覚障がい	12	16	5	9	9	2		53	7.3
聴覚障がい		19	10	13		30		72	9.9
平衡機能障がい			1		0			1	0.1
音声・言語・そしゃく機能障がい			7	11				18	2.5
肢体不自由（上肢）	19	48	36	23	15	9	7	157	21.7
肢体不自由（下肢）	20	45	70	110	47	21	5	318	43.9
肢体不自由（体幹）	9	13	7		5			34	4.7
脳原性全身性運動機能障がい	5	1	2	1	1	0	0	14	1.9
心臓機能障がい	106		16	7				129	17.8
呼吸器機能障がい	6		6	1				13	1.8
じん臓機能障がい	54		0	1				55	7.6
ぼうこう又は直腸機能障がい	3		3	39				45	6.2
小腸機能障がい	4		0	3				7	1.0
ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障がい	0	0	0	0				0	0.0
肝臓機能障がい	3	0	0	0				3	0.4

NA=89

3 生活状況について

問8 あなたのお住まいを、お答えください。病院に入院中の方は、入院前のお住まいを選んでください。

住まいについてたずねたところ、「持ち家」が68.0%で最も高く、次いで「賃貸住宅」が15.1%となっている。

項目	人数	構成比
持ち家（家族の持ち家を含む）	540	68.0
賃貸住宅	120	15.1
道営・市営等の公営住宅	37	4.7
社宅・公務員住宅	2	0.3
貸間	9	1.1
障がいのある方の社会福祉施設	19	2.4
介護保険施設	27	3.4
グループホーム	23	2.9
その他	17	2.1
合計	794	100.0

NA=20

問9 あなたは、次のことをひとりでできますか。それぞれの項目について、お答えください。

①食事

食事については、「ひとりでできる」が84.5%と最も高く、次いで「少し手伝いがいる」が9.7%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりでできる	661	84.5
少し手伝いがいる	76	9.7
全部手伝いがいる	45	5.8
合計	782	100.0

NA=32

②トイレ

トイレについては、「ひとりでできる」が85.3%と最も高く、次いで「全部手伝いがいる」が7.9%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりでできる	657	85.3
少し手伝いがいる	52	6.8
全部手伝いがいる	61	7.9
合計	770	100.0

NA=44

③入浴

入浴については、「ひとりでできる」が71.5%と最も高く、次いで「少し手伝いがいる」が16.1%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりでできる	547	71.5
少し手伝いがいる	123	16.1
全部手伝いがいる	95	12.4
合計	765	100.0

NA=49

④衣服の脱ぎ着

衣服の脱ぎ着については、「ひとりでできる」が77.8%と最も高く、次いで「少し手伝いがいる」が14.1%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりでできる	601	77.8
少し手伝いがいる	109	14.1
全部手伝いがいる	62	8.0
合計	772	100.0

NA=42

⑤家の中の歩行

家の中の歩行については、「ひとりでできる」が81.1%と最も高く、次いで「全部手伝いがいる」が10.0%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりでできる	617	81.1
少し手伝いがいる	68	8.9
全部手伝いがいる	76	10.0
合計	761	100.0

NA=53

⑥掃除などの家事

掃除などの家事については、「ひとりでできる」が49.2%と最も高く、次いで「少し手伝いがいる」が28.9%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりでできる	378	49.2
少し手伝いがいる	222	28.9
全部手伝いがいる	168	21.9
合計	768	100.0

NA=46

⑦通院などの外出

通院などの外出については、「ひとりでできる」が52.7%と最も高く、次いで「全部手伝いがいる」が24.4%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりでできる	407	52.7
少し手伝いがいる	177	22.9
全部手伝いがいる	188	24.4
合計	772	100.0

NA=42

【問9で1つでも、2または3を選択した場合に、お答えください。】

問9-1 おもな介助者の方は、どなたですか。

主な介助者をたずねたところ、「配偶者」が40.3%と最も高く、次いで「施設・病院の職員」が19.9%となっている。

項目	人数	構成比
30歳未満	4	1.5
30歳代	5	1.8
40歳代	29	10.6
50歳代	50	18.3
60歳代	56	20.5
70歳以上	129	47.3
合計	273	100.0

NA=12

【問9-1で1から6までを選択した場合に、お答えください。】

問9-4 おもな介助者の方が急病、事故、出産などのために介助ができなくなった場合に、どのようにしたいですか。

主な介助者が介助できなくなった場合の対応をたずねたところ、「介護や家事援助を行うホームヘルプサービスを利用する」が20.6%と最も高く、次いで「同居していない家族や親せきに頼む」「施設の短期入所（ショートステイ）を利用する」がいずれも16.9%となっている。

項目	人数	構成比
同居している別の家族に頼む	35	13.1
同居していない家族や親せきに頼む	45	16.9
介護や家事援助を行うホームヘルプサービスを利用する	55	20.6
施設の短期入所（ショートステイ）を利用する	45	16.9
意思疎通支援者（手話通訳者、要約筆記者等）を利用する	1	0.4
近所の人や友人・知人に頼む	2	0.7
ボランティアに頼む	3	1.1
ひとりでなんとか対応する	35	13.1
その他	5	1.9
わからない	41	15.4
合計	267	100.0

NA=18

問10 移動時に利用している補装具について、お答えください。(あてはまるすべてに○)

移動時に利用している補装具についてたずねたところ、「杖」が67.0%と最も高く、次いで「車いす」が26.4%となっている。

n=454

項目	人数	構成比
杖	304	67.0
車いす	120	26.4
歩行器	36	7.9
その他	63	13.9

NA=360

4 外出状況について

問11 あなたは、過去1年間にどのくらい外出しましたか。

過去1年間の外出状況についてたずねたところ、「週2回から3回」が37.2%と最も高く、次いで「ほぼ毎日」が26.0%となっている。

項目	人数	構成比
ほぼ毎日	201	26.0
週2回から3回	287	37.2
月2回から3回	174	22.5
年に数回	78	10.1
まったく外出しない	32	4.1
合計	772	100.0

NA=42

【問 11 で、 1 から 4 までを選択した場合に、お答えください。】

問 11-1 おもに誰と一緒に外出しましたか。

主に一緒に外出した人をたずねたところ、「ひとりで外出」が 42.9%と最も高く、次いで「配偶者」が 25.8%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりで外出	304	42.9
配偶者（夫または妻）	183	25.8
親	22	3.1
子ども（子の配偶者を含む）	80	11.3
その他の家族	8	1.1
親せき	4	0.6
ホームヘルパー	7	1.0
隣人・友人・知人	18	2.5
雇人	0	0.0
ボランティア	1	0.1
施設・病院の職員	72	10.2
その他	10	1.4
合計	709	100.0

NA=31

【問 11 で、 1 から 4 までを選択した場合に、お答えください。】

問 11-2 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。（あてはまるすべてに○）

外出する目的についてたずねたところ、「通院・リハビリ」が 69.3%と最も高く、次いで「買い物」が 62.3%となっている。

n=733

項目	人数	構成比
通勤・通学・通所	146	19.9
通院・リハビリ	508	69.3
買い物	457	62.3
友人・知人に会う	124	16.9
趣味・スポーツをする	102	13.9
市役所などの行政手続き	110	15.0
グループ活動に参加する	58	7.9
その他	46	6.3

NA=7

【問11で、1から4までを選択した場合に、お答えください。】

問11-3 おもな外出の手段を、お答えください。

主な外出手段をたずねたところ、「自家用車（自分の運転）」が33.5%と最も高く、次いで「自家用車（家族の運転）」が24.3%となっている。

項目	人数	構成比
徒歩・自転車	62	9.5
バス	50	7.7
タクシー	80	12.3
鉄道（JR）	2	0.3
自家用車（自分の運転）	219	33.5
自家用車（家族の運転）	159	24.3
施設等の送迎サービス	72	11.0
その他	9	1.4
合計	653	100.0

NA=87

問12 あなたは、外出する上で困ることや不満に思うことがありますか。

外出する上で困ることや不満に思うことがあるかたずねたところ、「困ることや不満に思うことがある」が51.8%、「困ることや不満に思うことがない」が48.2%となっている。

項目	人数	構成比
困ることや不満に思うことがある	380	51.8
困ることや不満に思うことはない	354	48.2
合計	734	100.0

NA=80

【問 12 で 1 を選択した場合に、お答えください。】

問 12-1 困ることや不満に思うことは、何ですか。(あてはまるすべてに○)

外出する上で困ることや不満に思うことがあると選択した人に対し、その具体的な内容についてたずねたところ、「雪道の歩行に苦勞する」が 60.4%と最も高く、次いで「道路や建物の段差が多い」が 30.3%となっている。

n=376

項目	人数	構成比
介助者がいない	41	10.9
必要なときに、まわりの助けが欲しい	87	23.1
バスなどの乗り降りが不便	107	28.5
道路や建物の段差が多い	114	30.3
通路上に自転車や看板などの障がい物が多くて通りにくい	23	6.1
利用する建物の設備（階段・トイレ・エレベーター等）の利用が不便	76	20.2
雪道の歩行に苦勞する	227	60.4
障がいのある方のための駐車スペースが少ないことや駐車できないことがある	94	25.0
自動車や自転車などに身の危険を感じる	54	14.4
コミュニケーションがとりにくい	38	10.1
視覚障がい者用誘導ブロックや音響式信号が不十分である。	11	2.9
外出に必要な情報が得られない	11	2.9
人の目が気にかかる	31	8.2
その他	23	6.1

NA=4

5 小学校入学前の方の生活について

問 13 あなたは、日中おもにどこで過ごしていますが。

回答者全員が「自宅」と回答している。

項目	人数	構成比
通所施設	0	0.0
こども通園センター	0	0.0
保育所	0	0.0
幼稚園	0	0.0
盲・ろう・養護学校幼稚部	0	0.0
自宅	5	100.0
その他	0	0.0
合計	5	100.0

6 小・中・高校生の方の通学・進路について

問 14 あなたの通学先は、どこですか。

小・中・高校生の回答者に通学先をたずねたところ、「盲・ろう・養護学校」が60.0%で最も高かった。

項目	人数	構成比
盲・ろう・養護学校	3	60.0
学校の通常学級	0	0.0
学校の特別支援学級	1	20.0
訪問教育	1	20.0
その他	0	0.0
合計	5	100.0

問 15 あなたは、現在の学校を卒業した後の進路を、どのように考えていますか。

卒業後の進路についてたずねたところ、「高等学校に進学したい」「養護学校・盲学校・ろう学校の高等部に進学したい」「就職したい」「とくに考えていない」「その他」がそれぞれ20.0%となっている。

項目	人数	構成比
高等学校に進学したい	1	20.0
養護学校・盲学校・ろう学校の高等部に進学したい	1	20.0
大学・専門学校に進学したい	0	0.0
就職したい	1	20.0
障がいのある方の施設に入所したい	0	0.0
障がいのある方の施設に通所したい	0	0.0
とくに考えていない	1	20.0
その他	1	20.0
合計	5	100.0

7 仕事について

問16 あなたは、現在仕事をしていますか。

仕事をしているかたずねたところ、「仕事をしていない」が72.8%であり、「仕事をしている」の27.2%よりも高くなっている。

項目	人数	構成比
仕事をしている	131	27.2
仕事をしていない	350	72.8
合計	481	100.0

NA=333

【問16で1を選択した場合に、お答えください。】

問16-1 どのような形で仕事をしていますか。

仕事の形態をたずねたところ、「会社・団体等の正規の従業員」が32.0%と最も高く、次いで「パート、アルバイト、契約社員」が30.5%となっている。

項目	人数	構成比
自営業者	16	12.5
家族従業者	3	2.3
会社・団体の役員	7	5.5
会社・団体等の正規の従業員	41	32.0
パート、アルバイト、契約社員	39	30.5
就労支援事業所で就労	11	8.6
地域活動支援センターで就労	1	0.8
内職	0	0.0
その他	10	7.8
合計	128	100.0

NA=3

【問 16 で 1 を選択した場合に、お答えください。】

問 16-2 現在の仕事の職種を、お答えください。

現在の仕事の職種をたずねたところ、「事務」が 18.5%と最も高く、次いで「サービス」が 13.7%となっている（その他を除く）。

項目	人数	構成比
運搬・清掃・包装	7	5.6
事務	23	18.5
サービス	17	13.7
生産工程	10	8.1
専門・技術	12	9.7
販売	8	6.5
輸送・機械運転	6	4.8
保安	2	1.6
建設・採掘	9	7.3
その他	30	24.2
合計	124	100.0

NA=7

【問 16 で 1 を選択した場合に、お答えください。】

問 16-3 現在の仕事は、どのような方法で見つけましたか。

現在の仕事をどのようにして見つけたかたずねたところ、「直接自分で探した」が 25.4%と最も高く、次いで「ハローワークの紹介」が 24.6%となっている。

項目	人数	構成比
ハローワークの紹介	28	24.6
学校の紹介	2	1.8
新聞や求人情報誌で見つけた	12	10.5
直接自分で探した	29	25.4
知人や縁故の紹介	19	16.7
障害者就業・生活支援センターからの情報提供	4	3.5
就労支援事業所・地域活動支援センターからの情報提供	2	1.8
その他	18	15.8
合計	114	100.0

NA=17

【問 16 で 2 を選択した場合に、お答えください。】

問 17 仕事をしていないおもな理由は、何ですか。

仕事をしていないおもな理由についてたずねたところ、「高齢のため」が 48.4%と最も高く、次いで「障がいのため」が 26.1%となっている。

項目	人数	構成比
障がいのため	82	26.1
病気のため	31	9.9
高齢のため	152	48.4
家事や育児に専念しているため	2	0.6
自分の障がいにあった仕事がないため	14	4.5
会社の倒産、人員整理のため	3	1.0
雇用してくれないため	4	1.3
賃金・労働条件が不満足なため	0	0.0
仕事をする必要がないため	13	4.1
その他	13	4.1
合計	314	100.0

NA=36

問 18 障がいのある方が働くために、どのような環境が整っていることが大切だと思いますか。(おもなもの3つ以内に○)

障がいのある方が働くために、どのような環境が整っていることが大切であるかたずねたところ、「障がいや健康状態にあわせた働き方ができること」が 72.5%と最も高く、次いで「事業主や職場の人が、障がいのある方について十分理解していること」が 32.6%となっている。

n=546

項目	人数	構成比
働いた内容に見合う適切な額の報酬が得られること	171	31.3
仕事や役割がやりがいを感じられるものであること	158	28.9
通勤手段が確保されていること	130	23.8
障がいや健康状態にあわせた働き方ができること	396	72.5
事業主や職場の人が、障がいのある方について十分理解していること	178	32.6
職場の施設や設備が、障がいのある方にも利用できるように配慮されていること	81	14.8
同じような障がいのある仲間と一緒に働けること	32	5.9
ジョブコーチなどの職場外部の支援者が、職場に慣れるまで援助してくれること	3	0.5
適切な能力評価が行われること	33	6.0
仕事に必要な知識や技術を身に付けるための支援が受けられること	47	8.6
就労の場をあっせんしてくれたり、相談できる場が整っていること	51	9.3
その他	7	1.3

NA=268

8 地域生活について

問19 地域・近隣の方とは、どのようなおつきあいをしていますか。(あてはまるすべてに○)

地域・近隣との付き合いについてたずねたところ、「会ったときはあいさつをする」が75.3%と最も高く、次いで「世間話をする」が37.6%となっている。

n=742

項目	人数	構成比
地域の行事や活動に積極的に参加している	104	14.0
用事を頼める程度のつきあいはしている	108	14.6
世間話をする	279	37.6
会ったときはあいさつをする	559	75.3
つきあいはしていない	143	19.3
その他	4	0.5

NA=72

問20 友だちとは、どのようなおつきあいをしていますか。(あてはまるすべてに○)

友だちとのつきあいについてたずねたところ、「気軽に話せる」が53.6%と最も高く、次いで「趣味や好きなことを一緒に楽しむ」が32.0%となっている。

n=724

項目	人数	構成比
悩みを相談できる	157	21.7
困ったときに支え合う	141	19.5
趣味や好きなことを一緒に楽しむ	232	32.0
気軽に話せる	388	53.6
友だちづきあいはない	216	29.8
その他	28	3.9

NA=90

9 余暇活動について

問 21 あなたは、現在スポーツやレクリエーション等をしていますか。

現在、スポーツやレクリエーション等をしているかたずねたところ、「していない」が77.5%、「している」が22.5%となっている。

項目	人数	構成比
している	165	22.5
していない	569	77.5
合計	734	100.0

NA=80

問 22 あなたが、この1年間にスポーツや運動を行った頻度はどれぐらいですか。

この1年間にスポーツや運動を行った頻度についてたずねたところ、「スポーツや運動を行わなかった」が43.9%と最も高く、次いで「週に1~2日（年51~150日）」が22.1%となっている。

項目	人数	構成比
週に3日以上（年151日以上）	102	15.9
週に1~2日（年51~150日）	142	22.1
月に1~3日（年12~50日）	71	11.1
3か月に1~2日（年4~11日）	16	2.5
年に1~3日	29	4.5
スポーツや運動を行わなかった	282	43.9
合計	642	100.0

NA=172

問23 あなたは、今後やってみたいスポーツやレクリエーション等がありますか。(おもなもの3つ以内に○)

今後やってみたいスポーツやレクリエーション等についてたずねたところ、「散歩(ウォーキング)」が39.6%で最も高く、次いで「旅行」が30.9%となっている。

n=677

項目	人数	構成比
散歩(ウォーキング)	268	39.6
ハイキング	13	1.9
ジョギング	22	3.2
体操	53	7.8
スキー	10	1.5
その他のスポーツ	25	3.7
音楽・美術鑑賞	68	10.0
パソコン	48	7.1
映画・ビデオ鑑賞	83	12.3
カラオケ・コーラス	75	11.1
旅行	209	30.9
家庭菜園	124	18.3
釣り	56	8.3
ボランティア	16	2.4
その他	20	3.0
とくにない	162	23.9

NA=137

問 24 障がいのある方のスポーツやレクリエーション活動を推進するためには、現在どのような課題があると思いますか。(あてはまるすべてに○)

障がいのある方のスポーツやレクリエーション活動を推進するためには、現在どのような課題があるかたずねたところ、「わからない」が32.8%と最も高く、次いで「とくにない」が23.8%となっている。

n=646

項目	人数	構成比
障がいの内容にあったスポーツ等の情報が得られない	116	18.0
一緒に行く仲間や団体の情報が得られない	103	15.9
障がいに対応した施設がない、または遠い	128	19.8
施設に移動する手段がない、または移動するための支援が得られない	90	13.9
活動を続けるための経済的な負担が大きい	97	15.0
障がい者スポーツ等の指導者が不足している	47	7.3
障がいへの配慮が受けられない	43	6.7
活動に対する周囲の理解が不足している	43	6.7
その他	10	1.5
とくにない	154	23.8
わからない	212	32.8

NA=168

10 相談ごとや情報の入手について

問 25 あなたは現在、悩んでいることや不安なことはありますか。(あてはまるすべてに○)

現在、悩んでいることや不安なことがあるかたずねたところ、「自分の健康や治療のこと」が 55.2%で最も高く、次いで「将来の援助（介護）のこと」が 35.3%となっている。

n=739

項目	人数	構成比
自分の健康や治療のこと	408	55.2
経済的なこと	240	32.5
住まいのこと	69	9.3
家事（炊事・掃除等）のこと	78	10.6
就学や進学のこと	4	0.5
仕事や就職のこと	38	5.1
家族のこと	142	19.2
将来の援助（介護）のこと	261	35.3
困ったときの相談先のこと	97	13.1
趣味や生きがいのこと	45	6.1
結婚のこと	9	1.2
近所づきあいのこと	6	0.8
その他	16	2.2
とくにない	176	23.8

NA=75

問 26 あなたは、悩みことや心配ごとを誰に相談しますか。(おもなもの3つ以内に○)

悩みことや心配ごとを誰に相談するかたずねたところ、「家族・親せき」が77.6%と最も高く、次いで「友人・知人」が26.0%となっている。

n=711

項目	人数	構成比
家族・親せき	552	77.6
友人・知人	185	26.0
会社の人・学校の先生	16	2.3
医師や看護師	143	20.1
障がい者施設の職員	67	9.4
市役所の職員	26	3.7
社会福祉協議会の職員	17	2.4
相談支援事業所の職員	29	4.1
児童相談所の職員	0	0.0
ホームヘルパー	36	5.1
障がい者団体の人	8	1.1
民生委員・児童委員	20	2.8
ボランティア	2	0.3
その他	17	2.4
誰もいない	40	5.6

NA=103

問27 あなたは、障がいのことや福祉サービスの情報を、どこから入手していますか。
(おもなものを3つ以内に○)

障がいのことや福祉サービスの情報をどこから入手しているかたずねたところ、「市の広報紙」が50.3%と最も高く、次いで「新聞・テレビ・ラジオ・インターネット」が38.1%となっている。

n=688

項目	人数	構成比
新聞・テレビ・ラジオ・インターネット	262	38.1
市の広報誌	346	50.3
市のホームページ	31	4.5
家族・親せき	123	17.9
友人・知人	71	10.3
会社の人・学校の先生	5	0.7
医師や看護師	118	17.2
障がい者施設の職員	60	8.7
市役所の職員	58	8.4
社会福祉協議会の職員	30	4.4
相談支援事業所の職員	57	8.3
児童相談所の職員	0	0.0
ホームヘルパー	34	4.9
障がい者団体の人	12	1.7
民生委員・児童委員	13	1.9
ボランティア	0	0.0
その他	36	5.2

NA=126

11 災害時のことについて

問28 あなたは、地震や洪水などの災害が発生した場合に、ひとりで避難できますか。

地震や洪水などの災害が発生した場合に、ひとりで避難できるかたずねたところ、「ひとりで避難できる」が46.3%と最も高く、次いで「介助者がいれば、避難できる」が42.3%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりで避難できる	357	46.3
介助者がいれば、避難できる	326	42.3
介助者がいても、避難することはむずかしいと思う	88	11.4
合計	771	100.0

NA=43

問 29 あなたは、災害（火災・地震・急病など）が発生した場合に、ひとりで消防機関に通報することができますか。

災害が発生した場合に、ひとりで消防機関に通報することができるかたずねたところ、「電話を使い、消防機関へ通報ができる」が73.8%と最も高く、次いで「通報できない」が18.1%となっている。

項目	人数	構成比
電話を使い、消防機関へ通報ができる	555	73.8
電話は使えないが、ファックスやメールを使い消防機関へ通報ができる	15	2.0
電話は使えないが、緊急通報システム（ホトライン）にて消防機関へ通報できる	38	5.1
通報できない	136	18.1
その他	8	1.1
合計	752	100.0

NA=62

問 30 あなたが地震や台風などの災害時に困ると思われることは、何ですか。（あてはまるすべてに○）

地震や台風などの災害時に困ると思われることについてたずねたところ、「安全なところまで、すぐに避難することができない」が35.6%で最も高く、次いで「どのような災害が起こったのか、すぐにはわからない」が27.3%となっている。

n=713

項目	人数	構成比
どのような災害が起こったのか、すぐにはわからない	195	27.3
救助を求めることができない	90	12.6
救助を求めても、来てくれる人がいない	56	7.9
安全なところまで、すぐに避難することができない	254	35.6
まわりの人々とのコミュニケーションがとれない	63	8.8
被害状況、避難の場所、物資の入手方法などがわからない	136	19.1
避難場所で十分な介助をしてくれる人がいない	91	12.8
必要な薬が手に入らない、治療を受けられない	181	25.4
補装具や日常生活用具が使えなくなる	80	11.2
障がいにあった対応をしてくれる避難所が近くにない	114	16.0
その他	19	2.7
とくにない	140	19.6
わからない	125	17.5

NA=101

12 障がいに対する正しい理解の促進について

問31 あなたは、障がいのある方に対する市民の理解について、どのように感じていますか。

障害のある方に対する市民の理解についてどのように感じているかたずねたところ、「どちらともいえない」が32.9%と最も高く、次いで「ある程度深まったと思う」が27.8%となっている。

項目	人数	構成比
かなり深まったと思う	28	3.8
ある程度深まったと思う	203	27.8
あまり深まったとは思わない	180	24.7
まったく深まったとは思わない	78	10.7
どちらともいえない	240	32.9
合計	729	100.0

NA=85

問32 あなたは、障がいのある方に対する市民の理解が深まるために、今後どのようなことが必要だと思いますか。（おもなものを3つ以内に○）

障がいのある方に対する市民の理解が深まるために、今後どのようなことが必要だと思いますかたずねたところ、「教育の充実」が36.3%と最も高く、次いで「ボランティアの育成」が33.6%となっている。

項目	人数	構成比
教育の充実	231	36.3
「障害者週間記念事業」などのイベントの充実	81	12.7
スポーツ・レクリエーション・文化活動などの場の充実	103	16.2
福祉出前講座や講演会の開催	137	21.5
ボランティアの育成	214	33.6
その他	24	3.8
とくにない	181	28.5

n=636

NA=178

問33 あなたは、平成28年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が施行されたことを、知っていましたか。

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が施行されたことの認知をたずねたところ、「知らない」が81.2%、「知っている」が18.8%となっている。

項目	人数	構成比
知っている	139	18.8
知らない	601	81.2
合計	740	100.0

NA=74

問34 あなたは、障がいを理由として、差別を受けたと思ったこと、悲しく嫌な思いをしたことがありますか。

障がいを理由として、差別を受けたと思ったこと、悲しく嫌な思いをしたことがあるかたずねたところ、「まったくない」が41.3%と最も高く、次いで「ほとんどない」が35.4%となっている。

項目	人数	構成比
よくある	40	5.5
時々ある	129	17.7
ほとんどない	258	35.4
まったくない	301	41.3
合計	728	100.0

NA=86

【問 34 で、 1 から 3 を選択した場合に、お答えください。】

問 34-1 それほどのようなことや場面でしたか。(あてはまるすべてに○)

問 34 で「よくある」「時々ある」「ほとんどない」と回答した方に対し、どのようなことや場面でそのように思ったかをたずねたところ、「じろじろ見られた」が 46.8%で最も高く、次いで「いやなことをいわれた」が 44.5%となっている。

n=299

項目	人数	構成比
いやなことを言われた	133	44.5
仲間はずれにされた	31	10.4
じろじろ見られた	140	46.8
暴力を振るわれた	4	1.3
施設の利用や交通機関への乗車拒否をされた	22	7.4
住まいを探すとき	23	7.7
その他	47	15.7

NA=128

問 35 あなたは、身体障がいのために支援を受けたいような場合でも、身体障がい者であることや、病気等のことを、周りの人に伝えなかったことがありますか。

身体障がいのために支援を受けたいような場合でも、身体障がい者であることや、病気等のことを、周りの人に伝えなかったことがあるかたずねたところ、「ない」が 40.2%で最も高く、次いで「ほとんどない」が 26.0%となっている。

項目	人数	構成比
ある	131	18.5
時々ある	108	15.3
ほとんどない	184	26.0
ない	284	40.2
合計	707	100.0

NA=107

【問 35 で、 1 または 2 を選択した場合に、 お答えください。】

問 35-1 身体障害者手帳を持っていることや、病気があることを伝えなかった（または伝えられなかった）理由には、どのようなものがありますか。（あてはまるすべてに○）

身体障害者手帳を持っていることや、病気があることを伝えなかった（または伝えられなかった）理由についてたずねたところ、「とくに伝える必要がないから」が 52.4%と最も高く、次いで「伝えても理解してもらえないから」が 40.1%となっている。

n=212

項目	人数	構成比
差別や偏見を受けるから	38	17.9
周囲の目が気になるから	48	22.6
家族の意向があるから	12	5.7
伝えても理解してもらえないから	85	40.1
とくに伝える必要がないから	111	52.4
その他	14	6.6

NA=27

13 将来のことや障がい者施策への要望について

問 36 あなたは、今後どのように暮らしたいですか。

今後どのように暮らしたいかたずねたところ、「今の場所で、引き続き暮らしたい」が 72.9%と最も高く、次いで「施設に通所しながら、在宅で暮らしたい」が 6.5%となっている。

項目	人数	構成比
今の場所で、引き続き暮らしたい	540	72.9
独立してひとりで暮らしたい	14	1.9
グループホーム等で仲間と一緒に暮らしたい	21	2.8
施設に通所しながら、在宅で暮らしたい	48	6.5
施設に入りたい	33	4.5
病院に入院したい	12	1.6
その他	14	1.9
わからない	59	8.0
合計	741	100.0

NA=73

問37 あなたは、今後、障がいのある方への施策について、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（おもなもの3つ以内に○）

今後、障がいのある方への施策について、市はどのようなことに力を入れるべきかたずねたところ、「障がいのある方の各種手当の充実、医療費の軽減」が34.7%と最も高く、次いで「除雪対策の充実」が32.5%となっている。

n=649

項目	人数	構成比
障がいのある方への理解を深める福祉教育や広報活動の充実	155	23.9
在宅福祉サービスの充実	128	19.7
入所施設の整備	94	14.5
民間賃貸住宅への入居に関するサポートや支援	36	5.5
一般企業における障がいのある方の雇用の促進	82	12.6
就労支援事業所や地域活動支援センターなどの就労の場の確保	42	6.5
総合的な相談や日常生活等の訓練を行う事業の充実	40	6.2
障がいのある方向け公営住宅の拡充	71	10.9
道路公共施設などを障がいのある方が利用しやすいものに改善整備する	76	11.7
障がいのある方の各種手当の充実、医療費の軽減	225	34.7
点字、手話などによる障がいのある方への情報提供の充実	14	2.2
スポーツ、レクリエーション、文化活動に参加しやすい環境の整備	26	4.0
福祉機器など障がいのある方の生活を支援する機器の開発	36	5.5
言語機能や機能訓練等の専門的な早期訓練の充実	24	3.7
災害時、緊急時の情報提供及び避難誘導対策の充実	100	15.4
交通安全対策の充実	18	2.8
除雪対策の充実	211	32.5
鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性の向上	63	9.7
相談に応じてくれるボランティアやピア・サポート活動への支援	40	6.2
仲間同士で交流できる憩いの場の充実	48	7.4
重度障がいに対応した医療的ケアが受けられる環境の整備	71	10.9
その他	13	2.0

NA=165

障がい者アンケート（B）知的障がい者

1 回答者自身のことについて

問1 あなたの年齢を、お答えください。

回答者に年齢をたずねたところ、「70歳代」が33.7%で最も高く、次いで「80歳以上」が30.1%となっている。

項目	人数	構成比
10歳未満	30	4.0
10～19歳	115	15.4
20～29歳	148	19.8
30～39歳	139	18.6
40～49歳	123	16.5
50～59歳	80	10.7
60～69歳	62	8.3
70～79歳	32	4.3
80～89歳	9	1.2
無回答	9	1.2
合計	747	100.0

NA=7

問2 あなたの性別を、お答えください。

回答者に性別をたずねたところ、「男性」が64.2%、「女性」が35.8%となっている。

項目	人数	構成比
男性	482	64.2
女性	269	35.8
合計	751	100.0

NA=3

問3 あなたは誰と一緒に暮らしていますか。(あてはまるすべてに○)

一緒に住んでいる人をたずねたところ、「親」が54.9%と最も高く、次いで「施設・グループホーム等の仲間」が29.2%となっている。

n=747

項目	人数	構成比
ひとりで暮らしている	72	9.6
親	410	54.9
配偶者	21	2.8
子ども	7	0.9
兄弟姉妹	146	19.5
祖父母	34	4.6
その他親族	7	0.9
友人・知人	2	0.3
施設・グループホーム等の仲間	218	29.2
その他	5	0.7

NA=7

2 障がいの状態などについて

問4 療育手帳の判定を、お答えください。

療育手帳の等級をたずねたところ、「B」が65.5%「A」が34.5%となっている。

項目	人数	構成比
A	247	34.5
B	468	65.5
合計	715	100.0

NA=39

問5 あなたの障がいが発生（判明）した時期は、何歳ごろですか。

障がいが発生（判明）した時期をたずねたところ、「10歳未満」が32.4%で最も高く、次いで「10歳代」が31.4%となっている。

項目	人数	構成比
10歳未満	244	32.4
10歳代	237	31.4
20歳代	80	10.6
30歳代	53	7.0
40歳代	35	4.6
50歳代	26	3.4
合計	675	100.0

NA=79

3 生活状況について

問6 あなたのお住まいを、お答えください。病院に入院中の方は、入院前のお住まいを選んでください。

住まいについてたずねたところ、「持ち家（家族の持ち家を含む）」が39.9%で最も高く、次いで「賃貸住宅」が23.3%となっている。

項目	人数	構成比
持ち家（家族の持ち家を含む）	301	39.9
賃貸住宅	176	23.3
道営・市営等公営住宅	30	4.0
社宅・公務員住宅	4	0.5
貸間	9	1.2
障がい者のある方の社会福祉施設	114	15.1
介護保険施設	4	0.5
グループホーム	83	11.0
その他	7	0.9
合計	728	100.0

NA=26

問7 あなたは、次のことをひとりでできますか。それぞれの項目について、お答えください。

①食事

食事については、「ひとりでできる」が74.8%と最も高く、次いで「少し手伝いがいる」が15.2%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりでできる	546	74.8
少し手伝いがいる	111	15.2
全部手伝いがいる	73	10.0
合計	730	100.0

NA=24

②トイレ

トイレについては、「ひとりでできる」が74.2%と最も高く、次いで「少し手伝いがいる」が16.4%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりでできる	542	74.2
少し手伝いがいる	120	16.4
全部手伝いがいる	68	9.3
合計	730	100.0

NA=24

③入浴

入浴については、「ひとりでできる」が62.8%と最も高く、次いで「少し手伝いがいる」が20.9%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりでできる	457	62.8
少し手伝いがいる	152	20.9
全部手伝いがいる	119	16.3
合計	728	100.0

NA=26

④衣服の脱ぎ着

衣服の脱ぎ着については、「ひとりでできる」が74.4%と最も高く、次いで「少し手伝いがいる」が16.4%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりでできる	541	74.4
少し手伝いがいる	119	16.4
全部手伝いがいる	57	9.2
合計	717	100.0

NA=37

⑤家の中の歩行

家の中の歩行については、「ひとりでできる」が87.2%と最も高く、次いで「全部手伝いがいる」が7.8%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりでできる	636	87.2
少し手伝いがいる	36	4.9
全部手伝いがいる	57	7.8
合計	729	100.0

NA=25

⑥掃除などの家事

掃除などの家事については、「少し手伝いがいる」が36.4%と最も高く、次いで「全部手伝いがいる」が33.0%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりでできる	222	30.6
少し手伝いがいる	264	36.4
全部手伝いがいる	239	33.0
合計	725	100.0

NA=29

⑦通院などの外出

通院などの外出については、「全部手伝いがいる」が47.6%と最も高く、次いで「ひとりでできる」が29.2%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりでできる	212	29.2
少し手伝いがいる	168	23.2
全部手伝いがいる	345	47.6
合計	725	100.0

NA=29

【問7で1つでも、2または3を選択した場合に、お答えください。】

問7-1 おもな介助者の方は、どなたですか。

主な介助者をたずねたところ、「親」が58.6%と最も高く、次いで「施設・病院の職員」が29.7%となっている。

項目	人数	構成比
親	312	58.6
配偶者（夫または妻）	13	2.4
子ども（子の配偶者を含む）	1	0.2
兄弟姉妹	14	2.6
その他の家族	5	0.9
親戚	5	0.9
ホームヘルパー	20	3.8
ボランティア	1	0.2
施設・病院の職員	158	29.7
その他	3	0.6
合計	532	100.0

NA=34

【問7-1で1から6までを選択した場合に、お答えください。】

問7-2 おもな介助者の方の健康状態は、いかがですか。

主な介助者の健康状態をたずねたところ、「まあ健康」が53.9%と最も高く、「非常に健康」が21.3%となっている。

項目	人数	構成比
非常に健康	73	21.3
まあ健康	185	53.9
あまり健康ではない	62	18.1
病気がち	23	6.7
合計	343	100.0

NA=7

【問7-1で1から6までを選択した場合に、お答えください。】

問7-3 おもな介助者の方の年齢は、何歳ですか。

主な介助者の年齢階層をたずねたところ、「50歳代」が29.6%で最も高く、次いで「60歳代」が22.3%となっている。

項目	人数	構成比
30歳未満	7	2.0
30歳代	31	9.0
40歳代	74	21.4
50歳代	102	29.6
60歳代	77	22.3
70歳代	54	15.7
合計	345	100.0

NA=5

【問7-1で1から6までを選択した場合に、お答えください。】

問7-4 おもな介助者の方が急病、事故、出産などのために介助ができなくなった場合に、どのようにしたいですか。

主な介助者が介助できなくなった場合の対応をたずねたところ、「施設の短期入所（ショートステイ）を利用する」が30.5%と最も高く、次いで「同居している家族に頼む」が26.0%となっている。

項目	人数	構成比
同居している家族に頼む	88	26.0
同居していない家族や親せきに頼む	66	19.5
介護や家事援助を行うホームヘルプサービスを利用する	13	3.8
施設の短期入所（ショートステイ）を利用する	103	30.5
近所の人や友人・知人に頼む	2	0.6
ボランティアに頼む	1	0.3
ひとりでなんとか対応する	19	5.6
その他	1	0.3
わからない	45	13.3
合計	338	100.0

NA=12

4 外出状況について

問8 あなたは、過去1年間にどのくらい外出しましたか。

過去1年間の外出状況についてたずねたところ、「ほぼ毎日」が48.6%と最も高く、次いで「週2回から3回」が22.0%となっている。

項目	人数	構成比
ほぼ毎日	352	48.6
週2回から3回	159	22.0
月3回	113	15.6
年に数回	92	12.7
まったく外出しない	8	1.1
合計	724	100.0

NA=30

【問8で、1から4までを選択した場合に、お答えください。】

問8-1 おもに誰と一緒に外出しましたか。

主に一緒に外出した人をたずねたところ、「ひとりで外出」が36.7%と最も高く、次いで「親」が26.8%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりで外出	250	36.7
配偶者	13	1.9
親	183	26.8
子ども	5	0.7
その他家族	14	2.1
親せき	2	0.3
ホームヘルパー	13	1.9
隣人・友人・知人	17	2.5
雇人	0	0.0
ボランティア	0	0.0
施設・病院の職員	180	26.4
その他	5	0.7
合計	682	100.0

NA=34

【問8で、1から4までを選択した場合に、お答えください。】

問8-2 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。(あてはまるすべてに○)

外出する目的についてたずねたところ、「買い物」が66.2%と最も高く、次いで「通勤・通学・通所」が59.6%となっている。

n=711

項目	人数	構成比
通勤・通学・通所	424	59.6
通院・リハビリ	268	37.7
買い物	471	66.2
友人・知人に会う	111	15.6
趣味・スポーツをする	135	19
市役所などの手続き	36	5.1
グループ活動に参加する	56	7.9
その他	22	3.1

NA=5

【問8で、1から4までを選択した場合に、お答えください。】

問8-3 おもな外出の手段を、お答えください。

主な外出手段をたずねたところ、「施設等の送迎サービス」が29.0%と最も高く、次いで「徒歩・自転車」が27.2%となっている。

項目	人数	構成比
徒歩・自転車	169	27.2
バス	88	14.2
タクシー	20	3.2
鉄道（JR）	2	0.3
自家用車（自分の運転）	23	3.7
自家用車（家族の運転）	137	22.1
施設等の送迎サービス	180	29.0
その他	2	0.3
合計	621	100.0

NA=95

問9 あなたは、外出する上で困ることや不満に思うことがありますか。

外出する上で困ることや不満に思うことがあるかたずねたところ、「困ることや不満に思うことがある」が43.7%、「困ることや不満に思うことがない」が56.3%となっている。

項目	人数	構成比
困ることや不安に思うことがある	281	43.7
困ることや不安に思うことがない	362	56.3
合計	643	100.0

NA=111

【問9で1を選択した場合に、お答えください。】

問9-1 困ることや不満に思うことは、何ですか。(あてはまるすべてに○)

外出する上で困ることや不満に思うことがあると選択した人に対し、その具体的な内容についてたずねたところ、「コミュニケーションがとりにくい」が54.2%と最も高く、次いで「雪道の歩行に苦勞する」が34.2%となっている。

n=275

項目	人数	構成比
介助者がいない	28	10.2
必要なときに、周りの助けが欲しい	87	31.6
バスなどの乗り降りが不便	40	14.5
道路や建物の段差が多い	37	13.5
通路上に自転車や看板などの障がい物が多くて通りにくい	16	5.8
利用する建物の設備（階段・トイレ・エレベーター等）の利用が不便	38	13.8
雪道の歩行に苦勞する	94	34.2
障がいのある方のための駐車スペースが少ないことや駐車できないことがある	27	9.8
自動車や自転車などに身の危険を感じる	56	20.4
コミュニケーションがとりにくい	149	54.2
視覚障がい者専用誘導ブロックや音響式信号が不十分である	6	2.2
外出に必要な情報が得られない	30	10.9
人の目が気になる	81	3.0
その他	19	6.9

NA=6

5 障害児通所支援や特別支援学級について

問10 あなたは、障害児通所支援や特別支援学級を利用したことがありますか。

障害児通所支援や特別支援学級の利用について、「ある」が67.1%、「ない」が32.9%となっている。

項目	人数	構成比
ある	404	67.1
ない	198	32.9
合計	602	100.0

NA=152

【問 10 で 1 を選択した場合に、お答えください。】

問 10-1 障害児通所支援や特別支援学級を利用した際の相談先について教えてください。(あてはまるすべてに○)

障害児通所支援や特別支援学級を利用した際の相談先についてたずねたところ、「学校」が 69.5%と最も高く、次いで「医療機関」が 38.7%となっている。

n=390

項目	人数	構成比
学校	271	69.5
幼稚園・保育園・認定子ども園	52	13.3
医療機関	151	38.7
市役所の関係部署	117	30.0
誰にも相談していない	16	4.1
その他	30	7.7

NA=14

【問 10 で 1 を選択した場合に、お答えください。】

問 10-2 障害児通所支援や特別支援学級を利用した際、困ったことや苦勞したことについて教えてください。(あてはまるすべてに○)

障害児通所支援や特別支援学級を利用した際に困ったことや苦勞したことについてたずねたところ、「困ったことや苦勞したことはなかった」が 38.3%で最も高く、「支援を受けるための情報が少なかった」が 32.9%となっている。

n=350

項目	人数	構成比
支援を受けるための情報が少なかった	115	32.9
支援を受けるための相談先がわからなかった	57	16.3
支援を受けるための診断に時間を要した	61	17.4
サービス利用する必要性や、障がい特性を理解するための適切なアドバイスが不足していた	106	30.3
困ったことや苦勞したことはなかった	134	38.3
その他	28	8.0

NA=54

6 小学校入学前の方の生活について

問11 あなたは、日中おもにどこで過ごしていますか。

日中おもにどこで過ごしているかたずねたところ、「保育所」が42.9%と最も高く、次いで「通所施設」が28.6%となっている。

項目	人数	構成比
通所施設	2	28.6
こども通園センター	1	14.3
保育所	3	42.9
幼稚園	0	0.0
盲・ろう・養護学校幼稚部	1	14.3
自宅	0	0.0
その他	0	0.0
合計	7	100.0

NA=7

7 小・中・高校生の方の通学・進路について

問12 あなたの通学先は、どこですか。

小・中・高校生の回答者に通学先をたずねたところ、「学校の特別支援学級」が54.6%で最も高く、次いで「盲・ろう・養護学校」が37.1%となっている。

項目	人数	構成比
盲・ろう・養護学校	36	37.1
学校の通常学級	6	6.2
学校の特別支援学級	53	54.6
訪問教育	0	0.0
その他	2	2.1
合計	97	100.0

NA=17

問13 あなたは、現在の学校を卒業した後の進路を、どのように考えていますか。

卒業後の進路についてたずねたところ、「養護学校・盲学校・ろう学校の高等部に進学したい」が32.6%と最も高く、「高等学校に進学したい」「就職したい」がそれぞれ19.6%となっている。

項目	人数	構成比
高等学校に進学したい	18	19.6
養護学校・盲学校・ろう学校の高等部に進学したい	30	32.6
大学・専門学校に進学したい	8	8.7
就職したい	18	19.6
障がいのある方の施設に入所したい	1	1.1
障がいのある方の施設に通所したい	7	7.6
特に考えていない	8	8.7
その他	2	2.2
合計	92	100.0

NA=22

8 仕事について

問14 あなたは、現在仕事をしていますか。

現在、仕事をしているかたずねたところ、「仕事をしている」が58.9%であり、「仕事をしていない」が41.1%となっている。

項目	人数	構成比
仕事をしている	318	58.9
仕事をしていない	222	41.1
合計	540	100.0

NA=214

【問 14 で 1 を選択した場合に、お答えください。】

問 14-1 どのような形で仕事をしていますか。

仕事の形態をたずねたところ、「就労支援事業所で就労」が 60.1%と最も高く、次いで「パート、アルバイト、契約社員」が 25.1%となっている。

項目	人数	構成比
自営業者	3	1.0
家族従業者	1	0.3
会社・団体の役員	4	1.3
会社・団体等の正規の従業員	21	6.8
パート・アルバイト、契約社員	78	25.1
就労支援事業所で就労	187	60.1
地域活動支援センターで就労	2	0.6
内職	1	0.3
その他	14	4.5
合計	311	100.0

NA=7

【問 14 で 1 を選択した場合に、お答えください。】

問 14-2 現在の仕事の職種を、お答えください。

現在の仕事の職種をたずねたところ、「生産工程」が 29.0%と最も高く、次いで「運搬・清掃・包装」が 23.9%となっている。

項目	人数	構成比
運搬・清掃・包装	71	23.9
事務	2	0.7
サービス	53	17.8
生産工程	86	29.0
専門・技術	7	2.4
販売	28	9.4
輸送・機械運転	1	0.3
保安	1	0.3
建設・採掘	1	0.3
その他	47	15.8
合計	297	100.0

NA=21

【問 14 で 1 を選択した場合に、お答えください。】

問 14-3 現在の仕事は、どのような方法で見つけましたか。

現在の仕事をどのような方法で見つけたかたずねたところ、「学校の紹介」が 35.9%と最も高く、次いで「就労支援事業所・地域活動支援センターからの情報提供」が 15.8%となっている。

項目	人数	構成比
ハローワークの紹介	36	12.1
学校の紹介	107	35.9
新聞や求人情報誌で見つけた	3	1.0
直接自分で探した	13	4.4
知人や縁故の紹介	26	8.7
障害者就業・生活支援センターからの情報提供	46	15.4
就労支援事業所・地域活動支援センターからの情報提供	47	15.8
その他	20	6.7
合計	298	100.0

NA=20

【問 14 で 2 を選択した場合に、お答えください。】

問 15 仕事をしていないおもな理由は、何ですか。

仕事をしていないおもな理由についてたずねたところ、「障がいのため」が 61.7%と最も高く、次いで「病気のため」「自分の障がいにあった仕事がないため」がいずれも 10.4%となっている。

項目	人数	構成比
障がいのため	113	61.7
病気のため	19	10.4
高齢のため	7	3.8
家事や育児に専念しているため	1	0.5
自分の障がいにあった仕事がないため	19	10.4
会社の倒産、人員整理のため	2	1.1
雇用してくれないため	0	0.0
賃金・労働条件が不満足なため	2	1.1
仕事をする必要がないため	5	2.7
その他	15	8.2
合計	183	100.0

NA=39

問16 障がいのある方が働くために、どのような環境が整っていることが大切だと思いますか。(おもなもの3つ以内に○)

障がいのある方が働くために、どのような環境が整っていることが大切であるかたずねたところ、「事業主や職場の人が、障がいのある方について十分理解していること」が52.9%と最も高く、次いで「障がいや健康状態に合わせた働き方ができること」が38.1%となっている。

n=575

項目	人数	構成比
働いた内容に見合う適切な額の報酬が得られること	212	36.9
仕事や役割がやりがいを感じられるものであること	175	30.4
通勤手段が確保されていること	145	25.2
障がいや健康状態に合わせた働き方ができること	219	38.1
事業主や職場の人が、障がいのある方について十分理解していること	304	52.9
職場の施設や設備が、障がいのある方にも利用できるようになる配慮されていること	66	11.5
同じような障がいのある仲間と一緒に働けること	99	17.2
ジョブコーチなどの職場外部の支援者が、職場に慣れるまで援助してくれること	56	9.7
適切な能力評価が行われること	42	7.3
仕事に必要な知識や技術を身に付けるために支援が受けられること	86	15.0
就労の場をあっせんしてくれたり、相談できる場が整っていること	79	13.7
その他	14	2.4

NA=179

9 地域生活について

問17 地域・近隣の方とは、どのようなおつきあいをしていますか。(あてはまるすべてに○)

地域・近隣との付き合いについてたずねたところ、「会ったときはあいさつをする」が59.9%と最も高く、次いで「つきあいはしていない」が37.5%となっている。

n=658

項目	人数	構成比
地域の行事や活動に積極的に参加している	48	7.3
用事を頼める程度のつきあいをしている	27	4.1
世間話をする	80	12.2
会ったときにあいさつをする	394	59.9
つきあいはしていない	247	37.5
その他	12	1.8

NA=96

問18 友だちとは、どのようなおつきあいをしていますか。(あてはまるすべてに○)

友だちとのつきあいについてたずねたところ、「趣味や好きなことを一緒に楽しむ」が39.3%と最も高く、次いで「友だちづきあいはない」が38.2%となっている。

n=652

項目	人数	構成比
悩みを相談できる	117	17.9
困ったときに支え合う	95	14.6
趣味や好きなことを一緒に楽しむ	256	39.3
気軽に話せる	247	37.9
友だちづきあいはない	249	38.2
その他	23	3.5

NA=102

10 余暇活動について

問19 あなたは、現在スポーツやレクリエーション等をしていますか。

現在、スポーツやレクリエーション等をしているかたずねたところ、「している」が29.0%、「していない」が71.0%となっている。

項目	人数	構成比
している	195	29.0
していない	477	71.0
合計	672	100.0

NA=82

問20 あなたが、この1年間にスポーツや運動を行った頻度はどれぐらいですか。

この1年間にスポーツや運動を行った頻度についてたずねたところ、「週に1~2日（年51~150日）」が31.5%と最も高く、次いで「スポーツや運動を行わなかった」が23.5%となっている。

項目	人数	構成比
週に3日以上（年151日以上）	129	22.0
週に1~2日（年51~150日）	185	31.5
月に1~3日（年12~50日）	59	10.1
3か月に1~2日（年4~11日）	16	2.7
年に1~3日	60	10.2
スポーツや運動を行わなかった	138	23.5
合計	587	100.0

NA=167

問21 あなたは、今後やってみたいスポーツやレクリエーション等がありますか。(おもなもの3つ以内に○)

今後やってみたいスポーツやレクリエーション等についてたずねたところ、「旅行」が30.0%で最も高く、次いで「散歩(ウォーキング)」25.9%となっている。

n=626

項目	人数	構成比
散歩	162	25.9
ハイキング	22	3.5
ジョギング	22	3.5
体操	33	5.3
スキー	41	6.5
その他のスポーツ	36	5.8
音楽・美術鑑賞	107	17.1
パソコン	80	12.8
映画・ビデオ鑑賞	158	25.2
カラオケ・コーラス	157	25.1
旅行	188	30.0
家庭菜園	21	3.4
釣り	38	6.1
ボランティア	13	2.1
その他	19	3.0
特にない	149	23.8

NA=128

問 22 障がいのある方のスポーツやレクリエーション活動を推進するためには、現在どのような課題があると思いますか。(あてはまるすべてに○)

障がいのある方のスポーツやレクリエーション活動を推進するためには、現在どのような課題があるかたずねたところ、「わからない」が32.3%と最も高く、次いで「障がいの内容にあったスポーツ等の情報が得られない」が23.9%となっている。

n=604

項目	人数	構成比
障がいの内容にあったスポーツ等の情報が得られない	144	23.9
一緒に行く仲間や団体の情報が得られない	136	22.6
障害に対応した施設がない、または遠い	118	19.6
施設に移動する手段がない、または移動するための支援が得られない	98	16.3
活動を続けるための経済的な負担が大きい	104	17.2
障がい者スポーツ等の指導者が不足している	96	15.9
障がいへの配慮が受けられない	88	14.6
活動に対する周囲の理解が不足している	123	20.4
その他	7	1.2
特になし	90	14.9
わからない	195	32.3

NA=150

11 相談ごとや情報の入手について

問 23 あなたは現在、悩んでいることや不安なことはありますか。(あてはまるすべてに○)

現在、悩んでいることや不安なことがあるかたずねたところ、「自分の健康や治療のこと」が 30.9%で最も高く、次いで「将来の援助（介護）のこと」が 29.2%となっている。

n=640

項目	人数	構成比
自分の健康や治療のこと	198	30.9
経済的なこと	169	26.4
住まいのこと	85	13.3
家事のこと	78	12.2
就学や進学のこと	56	8.8
仕事や就職のこと	138	21.6
家族のこと	127	19.9
将来の援助（介護）のこと	187	29.2
困った時の相談先のこと	114	17.8
趣味や生きがいのこと	69	10.8
結婚のこと	57	8.9
近所づきあいのこと	27	4.2
その他	14	2.2
特にない	167	26.1

NA=114

問 24 あなたは、悩みことや心配ごとを誰に相談しますか。(おもなもの3つ以内に○)

悩みことや心配ごとを誰に相談するかたずねたところ、「家族・親せき」が64.6%と最も高く、次いで「障がい者施設の職員」が41.2%となっている。

n=633

項目	人数	構成比
家族・親せき	409	64.6
友人・知人	112	17.7
会社の人・学校の先生	72	11.4
医師や看護師	70	11.1
障がい者施設の職員	261	41.2
市役所の職員	16	2.5
社会福祉協議会の職員	14	2.2
相談支援事業所の職員	72	11.4
児童相談所の職員	8	1.3
ホームヘルパー	26	4.1
障がい者団体の人	16	2.5
民生委員・児童委員	4	0.6
ボランティア	1	0.2
その他	28	4.4
誰もいない	31	4.9

NA=121

問 25 あなたは、障がいのことや福祉サービスの情報を、どこから入手していますか。
 (おもなもの3つ以内に○)

障がいのことや福祉サービスの情報をどこから入手しているかたずねたところ、「障がい者施設の職員」が38.5%と最も高く、次いで「家族・親せき」が29.8%となっている。

n=598

項目	人数	構成比
新聞・テレビ・ラジオ・インターネット	138	23.1
市の広報誌	90	15.1
市のホームページ	13	2.2
家族・親せき	178	29.8
友人・知人	56	9.4
会社の人・学校の先生	60	10.0
医師や看護師	70	11.7
障がい者施設の職員	230	38.5
市役所の職員	51	8.5
社会福祉協議会の職員	12	2.0
相談支援事業所の職員	100	16.7
児童相談所の職員	14	2.3
ホームヘルパー	19	3.2
障がい者団体の人	14	2.3
民生委員・児童委員	5	0.8
ボランティア	1	0.2
その他	29	4.8

NA=156

12 災害時のことについて

問 26 あなたは、地震や洪水などの災害が発生した場合に、ひとりで避難できますか。

地震や洪水などの災害が発生した場合に、ひとりで避難できるかたずねたところ、「介助者がいれば、避難できる」が55.7%と最も高く、次いで「ひとりで避難できる」が35.5%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりで避難できる	250	35.5
介助者がいれば、避難できる	393	55.7
介助者がいても、避難することは難しいと思う	62	8.8
合計	705	100.0

NA=49

問27 あなたは、災害（火災・地震・急病など）が発生した場合に、ひとりで消防機関に通報することができますか。

災害が発生した場合に、ひとりで消防機関に通報することができるかたずねたところ、「通報できない」が59.1%と最も高く、次いで「電話を使い、消防機関へ通報ができる」が36.2%となっている。

項目	人数	構成比
電話を使い、消防機関へ通報できる	253	36.2
電話は使えないが、ファックスやメールを使い消防機関へ通報ができる	4	0.6
電話は使えないが、緊急通報システム（ホトライン）にて、消防機関へ通報できる	14	2.0
通報できない	413	59.1
その他	15	2.1
合計	699	100.0

NA=55

問28 あなたが地震や台風などの災害時に困ると思われることは、何ですか。（あてはまるすべてに○）

地震や台風などの災害時に困ると思われることについてたずねたところ、「どのような災害が起こるか、すぐにはわからない」が46.0%で最も高く、次いで「周りの人とのコミュニケーションが取れない」が37.7%となっている。

n=692

項目	人数	構成比
どのような災害が起こるか、すぐにはわからない	318	46.0
救助を求めることができない	219	31.6
救助を求めても、消えてくれる人がいない	84	12.1
安全なところまで、すぐに避難することができない	237	34.2
周りの人とのコミュニケーションが取れない	261	37.7
被害状況、避難の場所、物資の入手方法などがわからない	252	36.4
避難場所で十分な介助をしてくれる人がいない	126	18.2
必要な薬が手に入らない	146	21.1
補装具や日常生活用具が使えなくなる	47	6.8
障がいがあった対応をしてくれる避難所が近くにない	162	23.4
その他	14	2.0
特にない	74	10.7
わからない	110	15.9

NA=62

12 障がいに対する正しい理解の促進について

問 29 あなたは、障がいのある方に対する市民の理解について、どのように感じていますか。

障害のある方に対する市民の理解についてどのように感じているかたずねたところ、「どちらともいえない」が 36.5%と最も高く、次いで「あまり深まったとは思わない」が 29.5%となっている。

項目	人数	構成比
かなり深まったと思う	33	5.2
ある程度深まったと思う	114	18.0
あまり深まったとは思わない	187	29.5
まったく深まったとは思わない	68	10.7
どちらともいえない	231	36.5
合計	633	100.0

NA=121

問 30 あなたは、障がいのある方に対する市民の理解が深まるために、今後どのようなことが必要だと思いますか。（おもなものを3つ以内に○）

障がいのある方に対する市民の理解が深まるために、今後どのようなことが必要だと思っかたずねたところ、「教育の充実」が 42.1%と最も高く、次いで「ボランティアの育成」が 32.1%となっている。

項目	人数	構成比
教育の充実	253	42.1
「障害者週間記念事業」などのイベントの充実	109	18.1
スポーツ・レクリエーション・文化活動などの場の充実	154	25.6
福祉出前講座や講演会の開催	110	18.3
ボランティアの育成	193	32.1
その他	18	3.0
とくにない	169	28.1

NA=153

問31 あなたは、平成28年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が施行されたことを、知っていましたか。

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が施行されたことの認知をたずねたところ、「知っている」が20.1%、「知らない」が79.9%となっている。

項目	人数	構成比
知っている	133	20.1
知らない	530	79.9
合計	663	100.0

NA=91

問32 あなたは、障がいを理由として、差別を受けたと思ったこと、悲しく嫌な思いをしたことがありますか。

障がいを理由として、差別を受けたと思ったこと、悲しく嫌な思いをしたことがあるかたずねたところ、「時々ある」が36.6%と最も高く、次いで「まったくない」が29.1%となっている。

項目	人数	構成比
よくある	101	16.0
時々ある	231	36.6
ほとんどない	116	18.4
まったくない	184	29.1
合計	632	100.0

NA=122

【問 32 で、 1 から 3 を選択した場合に、お答えください。】

問 32-1 それほどのようなことや場面でしたか。(あてはまるすべてに○)

問 32 で「よくある」「時々ある」「ほとんどない」と回答した方に対し、どのようなことや場面でそのように思ったかをたずねたところ、「いやなことを言われた」が 64.5%で最も高く、次いで「じろじろ見られた」が 52.1%となっている。

n=411

項目	人数	構成比
いやなことを言われた	265	64.5
仲間外れにされた	125	30.4
じろじろ見られた	214	52.1
暴力を振るわれた	43	10.5
施設の利用や交通機関への乗車拒否をされた	12	2.9
住まいを探すとき	17	4.1
その他	28	6.8

NA=37

問 33 あなたは、障がいのために支援を受けたいような場合でも、知的障がいがあることを、周りの人に伝えなかったことがありますか。

障がいのために支援を受けたいような場合でも、知的障がいがあることを、周りの人に伝えなかったことがあるかたずねたところ、「ない」が 44.6%で最も高く、次いで「ほとんどない」が 21.9%となっている。

項目	人数	構成比
ある	105	17.6
ときどきある	95	15.9
ほとんどない	131	21.9
ない	267	44.6
合計	598	100.0

NA=156

【問 33 で、1 または 2 を選択した場合に、お答えください。】

問 33-1 知的障がいがあることを伝えなかった（または伝えられなかった）理由には、どのようなものがありますか。（あてはまるすべてに○）

知的障がいがあることを伝えなかった（または伝えられなかった）理由についてたずねたところ、「伝えても理解してもらえないから」が 49.7%と最も高く、次いで「差別や偏見を受けるから」「周囲の目が気になるから」がいずれも 47.2%となっている。

n=195

項目	人数	構成比
差別や偏見を受けるから	92	47.2
周囲の目が気になるから	92	47.2
家族の意向があるから	14	7.2
伝えても理解してもらえないから	97	49.7
とくに伝える必要がないから	44	22.6
その他	13	6.7

NA=5

14 将来のことや障がい者施策への要望について

問 34 あなたは、今後どのように暮らしたいですか。

今後どのように暮らしたいかたずねたところ、「今の場所で、引き続き暮らしたい」が 49.1%と最も高く、次いで「独立してひとりで暮らしたい」が 13.0%となっている。

項目	人数	構成比
今の場所で、引き続き暮らしたい	318	49.1
独立してひとりで暮らしたい	84	13.0
グループホーム等で仲間と一緒に暮らしたい	79	12.2
施設に通所しながら、在宅で暮らしたい	58	9.0
施設に入りたい	15	2.3
病院に入院したい	2	0.3
その他	11	1.7
わからない	80	12.4
合計	647	100.0

NA=107

問 35 あなたは、今後、障がいのある方への施策について、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（おもなもの3つ以内に○）

今後、障がいのある方への施策について、市はどのようなことに力を入れるべきかたずねたところ、「がいのある方の各種手当の充実、医療費の軽減」が30.6%と最も高く、次いで「障がい者のある方への理解を深める福祉教育や広報活動の充実」が29.5%となっている。

n=562

項目	人数	構成比
障がいのある方への理解を深める福祉教育や広報活動の充実	166	29.5
在宅福祉サービスの充実	61	10.9
入所施設の整備	140	24.9
民間賃貸住宅への入居に関するサポートや支援	58	10.3
一般企業における障がいのある方の雇用の促進	123	21.9
就労支援事業所や地域活動支援センターなどの就労の場の確保	65	11.6
総合的な相談や日常生活等の訓練を行う事業の充実	60	10.7
障がいのある方向け公営住宅の拡充	62	11.0
道路公共施設などの障がいのある方が利用しやすいものに改善整備する	28	5.0
障がいのある方の各種手当の充実、医療費の軽減	172	30.6
点字、手話などによる障がいへの情報提供の充実	13	2.3
スポーツ・レクリエーション・文化活動に参加しやすい環境の充実	64	11.4
福祉機器などの障がいのある方の生活を支援する機器の開発	18	3.2
言語機能や機能訓練等の専門的な早期訓練の充実	29	5.2
災害時、緊急時の情報提供及び避難誘導対策の充実	65	11.6
交通安全対策の充実	12	2.1
除雪対策の充実	46	8.2
鉄道やバスなどの公共機関の利便性の向上	40	7.1
相談に応じてくれるボランティアやピア・サポート活動への支援	71	12.6
仲間同士で交流できる憩いの場の充実	62	11.0
重度障がいに対応した医療的ケアが受けられる環境の整備	54	9.6
その他	20	3.6

NA=192

障がい者アンケート（C）精神障がい者

1 回答者自身のことについて

問1 あなたの年齢を、お答えください。

回答者に年齢をたずねたところ、「40～49歳」が26.5%で最も高く、次いで「50～59歳」が19.8%となっている。

項目	人数	構成比
10～19歳	7	1.1
20～29歳	71	11.0
30～39歳	106	16.4
40～49歳	172	26.5
50～59歳	128	19.8
60～69歳	102	15.7
70～79歳	56	8.6
80～89歳	6	0.9
90～99歳	0	0.0
合計	648	100.0

NA=10

問2 あなたの性別を、お答えください。

回答者に性別をたずねたところ、「女性」が52.1%、「男性」が47.9%となっている。

項目	人数	構成比
男性	313	47.9
女性	341	52.1
合計	654	100.0

NA=4

問3 あなたは誰と一緒に暮らしていますか。(あてはまるすべてに○)

一緒に住んでいる人をたずねたところ、「親」が33.3%と最も高く、次いで「ひとりで暮らしている」が30.4%となっている。

n=651

項目	人数	構成比
ひとりで暮らしている	198	30.4
親	217	33.3
配偶者(夫または妻)	117	18.0
子ども	68	10.4
兄弟姉妹	59	9.1
祖父母	15	2.3
その他の親族	6	0.9
友人・知人	4	0.6
施設・グループホーム等の仲間	76	11.7
その他	15	2.3

NA=7

2 障がいの状態などについて

問4 あなたの障がいが発生(判明)した時期は、何歳ごろですか。

障がいが発生(判明)した時期をたずねたところ、「20～29歳」が31.9%で最も高く、次いで「不明」が23.1%となっている。

項目	人数	構成比
0～9歳	15	3.0
10～19歳	86	17.5
20～29歳	157	31.9
30～39歳	93	18.9
40～49歳	70	14.2
50～59歳	44	8.9
60～69歳	19	3.9
70～79歳	7	1.4
80～89歳	1	0.2
不明	148	23.1
合計	640	100.0

NA=18

問5 精神障害者保健福祉手帳の等級は、何級ですか。

精神障害者保健福祉手帳の等級をたずねたところ、「2級」が53.0%で最も高く、次いで「3級」が39.7%となっている。

項目	人数	構成比
1級	47	7.3
2級	340	53.0
3級	255	39.7
合計	642	100.0

NA=16

3 生活状況について

問6 あなたのお住まいを、お答えください。病院に入院中の方は、入院前のお住まいを選んでください。

住まいについてたずねたところ、「賃貸住宅」が39.3%で最も高く、次いで「持ち家」が39.2%となっている。

項目	人数	構成比
持ち家(家族の持ち家を含む)	253	39.2
賃貸住宅	254	39.3
道営・市営等の公営住宅	33	5.1
社宅・公務員住宅	4	0.6
貸間	11	1.7
障がいのある方の社会福祉施設	7	1.1
介護保険施設	18	2.8
グループホーム	38	5.9
その他	28	4.3
合計	646	100.0

NA=12

問7 あなたは日中、おもにどこで過ごしていますか。

日中、おもにどこで過ごしているかたずねたところ、「自宅」が59.0%で最も高く、次いで「就労支援事業所」が14.9%となっている。

項目	人数	構成比
学校	3	0.5
職場	85	13.5
就労支援事業所	94	14.9
仲間同士の集まる憩いの場	5	0.8
自宅	372	59.0
病院(デイケアを含む)	33	5.2
その他	39	6.2
合計	631	100.0

NA=27

問8 あなたは、次のことをひとりでできますか。それぞれの項目について、お答えください。

①食事

食事については、「ひとりでできる」が84.2%と最も高く、次いで「少し手伝いがいる」が12.2%となっている。

食事

項目	人数	構成比
ひとりでできる	540	84.2
少し手伝いがいる	78	12.2
全部手伝いがいる	23	3.6
合計	641	100.0

NA=17

②トイレ

トイレについては、「ひとりでできる」が94.0%と最も高く、次いで「少し手伝いがいる」が3.4%となっている。

トイレ

項目	人数	構成比
ひとりでできる	606	94.0
少し手伝いがいる	22	3.4
全部手伝いがいる	17	2.6
合計	645	100.0

NA=13

③入浴

入浴については、「ひとりでできる」が85.7%と最も高く、次いで「少し手伝いがいる」が9.3%となっている。

入浴

項目	人数	構成比
ひとりでできる	550	85.7
少し手伝いがいる	60	9.3
全部手伝いがいる	32	5.0
合計	642	100.0

NA=16

④衣服の脱ぎ着

衣服の脱ぎ着については、「ひとりでできる」が91.9%と最も高く、次いで「少し手伝いがいる」が5.8%となっている。

衣服の脱ぎ着

項目	人数	構成比
ひとりでできる	590	91.9
少し手伝いがいる	37	5.8
全部手伝いがいる	15	2.3
合計	642	100.0

NA=16

⑤家の中の歩行

家の中の歩行については、「ひとりでできる」が92.5%と最も高く、次いで「少し手伝いがいる」が5.1%となっている。

家の中の歩行

項目	人数	構成比
ひとりでできる	594	92.5
少し手伝いがいる	33	5.1
全部手伝いがいる	15	2.3
合計	642	100.0

NA=16

⑥掃除などの家事

掃除などの家事については、「ひとりでできる」が47.1%と最も高く、次いで「少し手伝いがいる」が36.6%となっている。

掃除などの家事

項目	人数	構成比
ひとりでできる	301	47.1
少し手伝いがいる	234	36.6
全部手伝いがいる	104	16.3
合計	639	100.0

NA=19

⑦通院などの外出

通院などの外出については、「ひとりでできる」が58.1%と最も高く、次いで「少し手伝いがいる」が26.8%となっている。

通院などの外出

項目	人数	構成比
ひとりでできる	371	58.1
少し手伝いがいる	171	26.8
全部手伝いがいる	97	15.2
合計	639	100.0

NA=19

【問8で1つでも、2または3を選択した場合に、お答えください。】

問8-1 おもな介助者の方は、どなたですか。

主な介助者をたずねたところ、「親」が36.8%と最も高く、次いで「配偶者（夫または妻）」が18.4%となっている。

項目	人数	構成比
親	128	36.8
配偶者(夫または妻)	64	18.4
子ども(子の配偶者を含む)	9	2.6
兄弟姉妹	13	3.7
その他の家族	3	0.9
親せき	2	0.6
ホームヘルパー	39	11.2
ボランティア	0	0.0
施設・病院の職員	57	16.4
その他	33	9.5
合計	348	100.0

NA=34

【問8-1で1から6までを選択した場合に、お答えください。】

問8-2 おもな介助者の方の健康状態は、いかがですか。

主な介助者の健康状態をたずねたところ、「まあ健康」が46.6%と最も高く、次いで「あまり健康ではない」が20.5%となっている。

項目	人数	構成比
非常に健康	38	17.4
まあ健康	102	46.6
あまり健康ではない	45	20.5
病気がち	34	15.5
合計	219	100.0

【問8-1で1から6までを選択した場合に、お答えください。】

問8-3 おもな介助者の方の年齢は、何歳ですか。

主な介助者の年齢階層をたずねたところ、「60歳代」「70歳以上」がいずれも30.1%で最も高く、次いで「50歳代」が18.3%となっている。

項目	人数	構成比
30歳未満	8	3.7
30歳代	12	5.5
40歳代	27	12.3
50歳代	40	18.3
60歳代	66	30.1
70歳以上	66	30.1
合計	219	100.0

【問8-1で1から6までを選択した場合に、お答えください。】

問8-4 おもな介助者の方が急病、事故、出産などのために介助ができなくなった場合に、どのようにしたいですか。

主な介助者が介助できなくなった場合に、どのようにしたいかたずねたところ、「わからない」が23.9%と最も高く、次いで「ひとりでなんとかする」が19.3%となっている。

項目	人数	構成比
同居している別の家族に頼む	35	16.1
同居して居ない家族や親せきに頼む	36	16.5
介護の家事援助を行うホームヘルプサービスを利用する	25	11.5
施設の短期入所(ショートステイ)を利用する	14	6.4
近所の人や友人に頼む	1	0.5
ボランティアに頼む	2	0.9
ひとりでなんとか対応する	42	19.3
その他	11	5.0
わからない	52	23.9
合計	218	100.0

NA=1

4 病気や医療について

問9 あなたの病名は、次のうちどの病気ですか。

病名（複数ある場合は、主なもの）についてたずねたところ、「統合失調症」が41.8%と最も高く、次いで「気分障がい（そう病・うつ病・そううつ病など）」が22.7%となっている。

項目	人数	構成比
統合失調症	247	41.8
気分障がい(そう病・うつ病・そううつ病など)	134	22.7
脳気質性精神障がい(アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症など)	25	4.2
精神作用物質による精神障がい(アルコール使用・有機溶剤使用など)	5	0.8
神経症性障がい(不安障がい・パニック障がい・強迫性障がいなど)	29	4.9
発達障がい(広汎性発達障がい・学習障がい・多動性障がいなど)	79	13.4
てんかん	17	2.9
その他	29	4.9
わからない	26	4.4
合計	591	100.0

NA=67

問10 あなたは、現在、精神科（神経内科・心療内科等）で治療を受けていますか。

現在、精神科（神経内科・心療内科等）で治療を受けているかたずねたところ、「通院中」が94.3%で最も高く、次いで「治療を受けていない」が3.5%となっている。

項目	人数	構成比
通院中	611	94.3
入院中	14	2.2
治療を受けていない	23	3.5
合計	648	100.0

NA=10

【問 10 で 1 を選択した場合に、お答えください。】

問 10-1 通院日数は、どのくらいですか。

問 10 で「通院中」と答えた方に、通院日数についてたずねたところ、「月 1 回」が 61.9%と最も高く、次いで「2 か月から 3 か月に 1 日」が 19.6%となっている。

項目	人数	構成比
ほぼ毎日	3	0.5
週 2 日から 3 日	8	1.3
週 1 日	10	1.7
月 2 日から 3 日	84	13.9
月 1 日	375	61.9
2 か月から 3 か月に 1 日	119	19.6
年に数回	7	1.2
合計	606	100.0

NA=5

【問 10 で 2 を選択した場合に、お答えください。】

問 10-2 今回の入院期間は、どのくらいですか。

問 10 で「入院中」と答えた方に、今回の入院期間についてたずねたところ、「月 1 回」が 61.9%と最も高く、次いで「2 か月から 3 か月に 1 日」が 19.6%となっている。

項目	人数	構成比
3 か月未満	4	30.8
6 か月未満	0	0.0
1 年未満	1	7.7
1 年から 2 年未満	1	7.7
2 年から 5 年未満	2	15.4
5 年以上	5	38.5
わからない	0	0.0
合計	13	100.0

NA=1

問11 これまでの入院回数を、お答えください。

これまでの入院回数をたずねたところ、「2回から5回」が34.5%と最も高く、次いで「ない」が27.8%となっている。

項目	人数	構成比
ない	177	27.8
1回	124	19.5
2回から5回	220	34.5
6回から10回	48	7.5
11回から20回	18	2.8
21回以上	7	1.1
わからない	43	6.8
合計	637	100.0

NA=21

問12 これまでの入院期間を合計すると、どのくらいの期間になりますか。

これまでの入院期間を合計すると、どのくらいの期間になるかたずねたところ、「ない」が25.3%と最も高く、次いで「3か月未満」が23.1%となっている。

項目	人数	構成比
ない	158	25.3
3か月未満	144	23.1
6か月未満	70	11.2
1年未満	57	9.1
1年から2年未満	66	10.6
2年から5年未満	43	6.9
5年以上	27	4.3
わからない	59	9.5
合計	624	100.0

NA=34

5 外出状況について

問 13 あなたは、過去 1 年間にどのくらい外出しましたか。

過去 1 年間の外出状況についてたずねたところ、「ほぼ毎日」が 36.1%と最も高く、次いで「週 2 回から 3 回」が 35.5%となっている。

項目	人数	構成比
ほぼ毎日	234	36.1
週 2 回から 3 回	230	35.5
月 2 回から 3 回	123	19.0
年に数回	48	7.4
まったく外出しない	13	2.0
合計	648	100.0

NA=10

【問 13 で、1 から 4 までを選択した場合に、お答えください。】

問 13-1 おもに誰と一緒に外出しましたか。

主に一緒に外出した人をたずねたところ、「ひとりで外出」が 56.9%と最も高く、次いで「親」が 12.5%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりで外出	351	56.9
配偶者(夫または妻)	66	10.7
親	77	12.5
子ども(子の配偶者を含む)	20	3.2
その他の家族	15	2.4
親せき	0	0.0
ホームヘルパー	9	1.5
隣人・友人・知人	24	3.9
雇人	0	0.0
ボランティア	1	0.2
施設・病院の職員	35	5.7
その他	11	1.8
合計	609	100.0

NA=26

【問 13 で、 1 から 4 までを選択した場合に、お答えください。】

問 13-2 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。(あてはまるすべてに○)

外出する目的についてたずねたところ、「買い物」が 70.4%と最も高く、次いで「通院・リハビリ」が 63.3%となっている。

n=621

項目	人数	構成比
通勤・通学・通所	229	36.9
通院・リハビリ	393	63.3
買物	437	70.4
友人・知人に会う	112	18.0
趣味・スポーツをする	100	16.1
市役所などの行政手続き	119	19.2
グループ活動に参加する	21	3.4
その他	52	8.4

NA=14

【問 13 で、 1 から 4 までを選択した場合に、お答えください。】

問 13-3 おもな外出の手段を、お答えください。

主な外出手段をたずねたところ、「徒歩・自転車」が 30.0%と最も高く、次いで「自家用車(家族の運転)」が 19.0%となっている。

項目	人数	構成比
徒歩・自転車	176	30.0
バス	88	15.3
タクシー	35	6.1
鉄道(JR)	2	0.3
自家用車(自分の運転)	96	16.7
自家用車(家族の運転)	109	19.0
施設等の送迎サービス	54	9.4
その他	7	1.2
合計	567	100.0

NA=68

問 14 あなたは、外出する上で困ることや不満に思うことがありますか。

外出する上で困ることや不満に思うことがあるかたずねたところ、「困ることや不満に思うことがある」が 48.3%、「困ることや不満に思うことがない」が 51.7%となっている。

項目	人数	構成比
困ることや不満に思うことがある	304	48.3
困ることや不満に思うことはない	326	51.7
合計	630	100.0

NA=28

【問 14 で 1 を選択した場合に、お答えください。】

問 14-1 困ることや不満に思うことは、何ですか。(あてはまるすべてに○)

外出する上で困ることや不満に思うことがあると選択した人に対し、その具体的な内容についてたずねたところ、「人の目が気にかかる」が 51.7%と最も高く、次いで「雪道の歩行に苦勞する」が 33.4%となっている。

n=302

項目	人数	構成比
介助者がいない	27	8.9
必要なとき、まわりの助けが欲しい	69	22.8
バスなどの乗り降りが不便	55	18.2
道路や建物の段差が多い	24	7.9
通路上に自転車や看板など障がい物が多くて通りにくい	12	4.0
利用する建物の設備(階段・トイレ・エレベーター等)の利用者が不便	18	6.0
雪道の歩行に苦勞する	101	33.4
障がいのある方のための駐車スペースが少ないことや駐車できないことがある	15	5.0
自動車や自転車などに身の危険を感じる	64	21.2
コミュニケーションがとりにくい	91	30.1
視覚障がい者誘導ブロックや音響式信号が得られない	5	1.7
外出に必要な情報が得られない	19	6.3
人の目が気にかかる	156	51.7
その他	63	20.9

NA=2

6 障害児通所支援や特別支援学級について

問 15 あなたは、障害児通所支援や特別支援学級を利用したことがありますか。

障害児通所支援や特別支援学級の利用について、「ある」が 8.0%、「ない」が 92.0%となっている。

項目	人数	構成比
ある	48	8.0
ない	554	92.0
合計	602	100.0

NA=56

【問 15 で 1 を選択した場合に、お答えください。】

問 15-1 障害児通所支援や特別支援学級を利用した際の相談先について教えてください。(あてはまるすべてに○)

障害児通所支援や特別支援学級を利用した際の相談先についてたずねたところ、「医療機関」が 55.3%と最も高く、次いで「市役所の関係部署」が 29.8%となっている。

n=47

項目	人数	構成比
学校	12	25.5
幼稚園・保育所・認定こども園	0	0.0
医療機関	26	55.3
市役所の関係部署	14	29.8
誰にも相談していない	1	2.1
その他	6	12.8

NA=1

【問 15 で 1 を選択した場合に、お答えください。】

問 15-2 障害児通所支援や特別支援学級を利用した際、困ったことや苦勞したことについて教えて下さい。(あてはまるすべてに○)

障害児通所支援や特別支援学級を利用した際に困ったことや苦勞したことについてたずねたところ、支援を受けるための情報が少なかった」が 37.2%で最も高く、「支援を受けるための相談先がわからなかった」が 32.6%となっている。

n=43

項目	人数	構成比
支援を受けるための情報が少なかった	16	37.2
支援を受けるための相談先がわからなかった	14	32.6
支援を受けるための診断に時間を要した	6	14.0
サービスを利用する必要性や、障がい特性を理解するための適切なアドバイスが不足していた	12	27.9
困ったことや苦勞したことはなかった	12	27.9
その他	3	7.0

NA=5

7 仕事について

問 16 あなたは、現在仕事をしていますか。

現在、仕事をしているかたずねたところ、「仕事をしている」が 35.8%であり、「仕事をしていない」が 64.2%となっている。

項目	人数	構成比
仕事をしている	233	35.8
仕事をしていない	417	64.2
合計	650	100.0

NA=8

【問 16 で 1 を選択した場合に、お答えください。】

問 16-1 どのような形で仕事をしていますか。

仕事の形態をたずねたところ、「就労支援事業所で就労」が 42.5%と最も高く、次いで「パート、アルバイト、契約社員」が 36.8%となっている。

項目	人数	構成比
自営業者	8	3.5
家族従業者	3	1.3
会社・団体の役員	1	0.4
会社・団体等の正規の従業員	26	11.4
パート・アルバイト、契約社員	84	36.8
就労支援事業所で就労	97	42.5
地域活動支援センターで就労	4	1.8
内職	0	0.0
その他	5	2.2
合計	228	100.0

NA=5

【問 16 で 1 を選択した場合に、お答えください。】

問 16-2 現在の仕事の職種を、お答えください。

現在の仕事の職種をたずねたところ、「生産工程」が 17.0%と最も高く、次いで「事務」が 15.6%となっている（その他を除く）。

項目	人数	構成比
運搬・清掃・包装	22	10.1
事務	34	15.6
サービス	29	13.3
生産工程	37	17.0
専門・技術	14	6.4
販売	14	6.4
輸送・機械運転	2	0.9
保安	1	0.5
建設・採掘	1	0.5
その他	64	29.4
合計	218	100.0

NA=15

【問 16 で 1 を選択した場合に、お答えください。】

問 16-3 現在の仕事は、どのような方法で見つけましたか。

現在の仕事をどのような方法で見つけたかたずねたところ、「ハローワークの紹介」が 21.2%と最も高く、次いで「就労支援事業所・地域活動支援センターからの情報提供」が 15.5%となっている。

項目	人数	構成比
ハローワークの紹介	48	21.2
学校の紹介	3	1.3
新聞や求人情報誌で見つけた	15	6.6
直接自分で探した	31	13.7
知人や縁故の紹介	27	11.9
障害者就労支援・生活支援センターからの情報提供	32	14.2
就労支援事業所・地域活動支援センターからの情報提供	35	15.5
その他	35	15.5
合計	226	100.0

NA=7

【問 16 で 1 を選択した場合に、お答えください。】

問 16-4 障がいや病気に対する職場からの理解について、どのように感じていますか。

障がいや病気に対する職場からの理解について、どのように感じているかたずねたところ、「十分な理解を得られている」が 43.2%と最も高く、次いで「多少の理解は得られている」が 26.2%となっている。

項目	人数	構成比
十分な理解を得られている	99	43.2
多少の理解は得られている	60	26.2
どちらもいえない	19	8.3
あまり理解を得られていない	18	7.9
全く理解を得られていない	11	4.8
障がい、病気について職場に伝えていない	19	8.3
その他	3	1.3
合計	229	100.0

NA=4

【問 16 で 2 を選択した場合に、お答えください。】

問 17 仕事をしていないおもな理由は、何ですか。

仕事をしていないおもな理由についてたずねたところ、「障がいのため」が 35.6%と最も高く、次いで「病気のため」が 28.2%となっている。

項目	人数	構成比
障がいのため	135	35.6
病気のため	107	28.2
高齢のため	40	10.6
家事や育児に専念しているため	3	0.8
自分の障がいにあった仕事がないため	39	10.3
会社の倒産、人員整理のため	2	0.5
雇用してくれないため	11	2.9
賃金、労働条件が不満足なため	4	1.1
仕事をする必要がないため	11	2.9
その他	27	7.1
合計	379	100.0

NA=38

問 18 障がいのある方が働くために、どのような環境が整っていることが大切だと思いますか。(おもなもの3つ以内に○)

障がいのある方が働くために、どのような環境が整っていることが大切であるかたずねたところ、「障がいや健康状態に合わせた働き方ができること」が 53.9%と最も高く、次いで「事業主や職場の人が、障がいのある方について十分理解していること」が 51.6%となっている。

n=577

項目	人数	構成比
働いた内容に見合う適切な価格の報酬が得られること	227	39.3
仕事や役割がやりがいを感じられるものであること	144	25.0
通勤手段が確保されていること	151	26.2
障がいや健康状態にあわせた働き方ができること	311	53.9
事業主や職場の人が、障がいのある方について十分理解していること	298	51.6
職場の施設や設備が、障がいのある方にも利用できるように配慮されていること	41	7.1
同じような障がいのある仲間と一緒に働けること	53	9.2
ジョブコーチなどの職場外部の支援者が、職場になれるまで援助してくれること	40	6.9
適切な能力評価が行われること	44	7.6
仕事に必要な知識や技術を身に付けるための支援を受けられること	62	10.7
就労の場をあっせんしてくれたり、相談できる場が整っていること	97	16.8
その他	21	3.6

NA=81

8 地域生活について

問19 地域・近隣の方とは、どのようなおつきあいをしていますか。(あてはまるすべてに○)

地域・近隣との付き合いについてたずねたところ、「会ったときはあいさつをする」が60.3%と最も高く、次いで「つきあいはしていない」が31.7%となっている。

n=635

項目	人数	構成比
地域の行事や活動に積極的に参加している	34	5.4
用事を頼める程度のつきあいはしている	88	13.9
世間話をする	88	13.9
会ったときはあいさつをする	383	60.3
つきあいはしていない	201	31.7
その他	15	2.4

NA=23

問20 友だちとは、どのようなおつきあいをしていますか。(あてはまるすべてに○)

友だちとのつきあいについてたずねたところ、「友だちづきあいはない」が40.6%と最も高く、次いで「気軽に話せる」が40.3%となっている。

n=631

項目	人数	構成比
悩みを相談できる	170	26.9
困ったときは支え合う	144	22.8
趣味や好きなことを一緒に楽しむ	195	30.9
気軽に話せる	254	40.3
友だちづきあいはない	256	40.6
その他	32	5.1

NA=27

9 余暇活動について

問 21 あなたは、現在スポーツやレクリエーション等をしていますか。

現在、スポーツやレクリエーション等をしているかたずねたところ、「している」が19.8%、「していない」が80.2%となっている。

項目	人数	構成比
している	128	19.8
していない	517	80.2
合計	645	100.0

NA=13

問 22 あなたが、この1年間にスポーツや運動を行った頻度はどれぐらいですか。

この1年間にスポーツや運動を行った頻度についてたずねたところ、「スポーツや運動を行わなかった」が40.3%と最も高く、次いで「週に1～2日(年51～150日)」が19.7%となっている。

項目	人数	構成比
週に3日以上(年151日以上)	98	16.8
週に1～2日(年51～150日)	115	19.7
月に1～3日(年12～50日)	78	13.3
3か月に1～2日(年4～11日)	23	3.9
年に1～3日	35	6.0
スポーツや運動を行わなかった	236	40.3
合計	585	100.0

NA=73

問23 あなたは、今後やってみたいスポーツやレクリエーション等がありますか。(おもなもの3つ以内に○)

今後やってみたいスポーツやレクリエーション等についてたずねたところ、「散歩(ウォーキング)」が35.2%で最も高く、次いで「旅行」24.8%となっている。

n=616

項目	人数	構成比
散歩(ウォーキング)	217	35.2
ハイキング	15	2.4
ジョギング	34	5.5
体操	39	6.3
スキー	21	3.4
その他のスポーツ	35	5.7
音楽・美術鑑賞	135	21.9
パソコン	99	16.1
映画・ビデオ鑑賞	127	20.6
カラオケ・コーラス	93	15.1
旅行	153	24.8
家庭菜園	35	5.7
釣り	35	5.7
ボランティア	35	5.7
その他	30	4.9
とくにない	142	23.1

NA=42

問 24 障がいのある方のスポーツやレクリエーション活動を推進するためには、現在どのような課題があると思いますか。(あてはまるすべてに○)

障がいのある方のスポーツやレクリエーション活動を推進するためには、現在どのような課題があるかたずねたところ、「わからない」が30.9%と最も高く、次いで「一緒に行う仲間や団体の情報が得られない」が28.9%となっている。

n=606

項目	人数	構成比
障がいの内容にあったスポーツ等の情報が得られない	128	21.1
一緒に行う仲間や団体の情報が得られない	175	28.9
障がいに対応した施設がない、または遠い	141	23.3
施設に移動する手段がないまたは移動するための支援が得られない	116	19.1
活動を続けるための経済的な負担が大きい	162	26.7
障がい者スポーツ等の指導者が不足している	46	7.6
障がいへの配慮が受けられない	70	11.6
活動に対する周囲の理解が不足している	100	16.5
その他	18	3.0
とくにない	90	14.9
わからない	187	30.9

NA=52

10 相談ごとや情報の入手について

問 25 あなたは現在、悩んでいることや不安なことはありますか。(あてはまるすべてに○)

現在、悩んでいることや不安なことがあるかたずねたところ、「自分の健康や治療のこと」が66.0%で最も高く、次いで「経済的なこと」が63.2%となっている。

n=636

項目	人数	構成比
自分の健康や治療のこと	420	66.0
経済的なこと	402	63.2
住まいのこと	160	25.2
家事(炊事・掃除等)のこと	172	27.0
就学や進学のこと	12	1.9
仕事や就職のこと	226	35.5
家族のこと	200	31.4
将来の援助(介護)のこと	265	41.7
困ったときの相談先のこと	183	28.8
趣味や生きがいのこと	135	21.2
結婚のこと	102	16.0
近所づきあいのこと	51	8.0
その他	17	2.7
とくにない	49	7.7

NA=22

問 26 あなたは、悩みことや心配ごとを誰に相談しますか。(おもなもの3つ以内に○)

悩みことや心配ごとを誰に相談するかたずねたところ、「家族・親せき」が62.8%と最も高く、次いで「医師・看護師」が34.2%となっている。

n=635

項目	人数	構成比
家族・親せき	399	62.8
友人・知人	200	31.5
会社の人・学校の先生	18	2.8
医師や看護師	217	34.2
障がい者施設の職員	92	14.5
市役所の職員	33	5.2
社会福祉協議会の職員	9	1.4
相談支援事業所の職員	51	8.0
児童相談所の職員	1	0.2
ホームヘルパー	31	4.9
障がい者団体の人	12	1.9
いのちの電話の相談員	8	1.3
民生委員・児童委員	5	0.8
ボランティア	1	0.2
その他	48	7.6
誰もいない	73	11.5

NA=23

問27 あなたは、障がいのことや福祉サービスの情報を、どこから入手していますか。
 (おもなもの3つ以内に○)

障がいのことや福祉サービスの情報をどこから入手しているかたずねたところ、「新聞・テレビ・ラジオ・インターネット」が38.9%と最も高く、次いで「医師や看護師」が26.9%となっている。

n=607

項目	人数	構成比
新聞・テレビ・ラジオ・インターネット	236	38.9
市の広報誌	149	24.5
市のホームページ	36	5.9
家族・親せき	120	19.8
友人・知人	42	6.9
会社の人・学校の先生	5	0.8
医師や看護師	163	26.9
障がい者施設の職員	103	17.0
市役所の職員	73	12.0
社会福祉協議会の職員	13	2.1
相談支援事業所の職員	46	7.6
児童相談所の職員	0	0.0
ホームヘルパー	23	3.8
障がい者団体の人	7	1.2
民生委員・児童委員	5	0.8
ボランティア	1	0.2
その他	49	8.1

NA=51

11 災害時のことについて

問 28 あなたは、地震や洪水などの災害が発生した場合に、ひとりで避難できますか。

地震や洪水などの災害が発生した場合に、ひとりで避難できるかたずねたところ、「ひとりで避難できる」が60.8%と最も高く、次いで「介助者がいれば、避難できる」が33.8%となっている。

項目	人数	構成比
ひとりで避難できる	387	60.8
介助者がいれば、避難できる	215	33.8
介助者がいても、避難することはむずかしいと思う	34	5.3
合計	636	100.0

NA=22

問 29 あなたは、災害（火災・地震・急病など）が発生した場合に、ひとりで消防機関に通報することができますか。

災害が発生した場合に、ひとりで消防機関に通報することができるかたずねたところ、「電話を使い、消防機関へ通報ができる」が77.7%と最も高く、次いで「通報できない」が17.4%となっている。

項目	人数	構成比
電話を使い、消防機関へ通報ができる	496	77.7
電話は使えないが、ファックスやメールを使い消防機関へ通報ができる	1	0.2
電話は使えないが、緊急通報システム(ホットライン)にて、消防機関へ通報できる	4	0.6
通報できない	111	17.4
その他	26	4.1
合計	638	100.0

NA=20

問30 あなたが地震や台風などの災害時に困ると思われることは、何ですか。(あてはまるすべてに○)

地震や台風などの災害時に困ると思われることについてたずねたところ、「必要な薬が手に入らない、治療を受けられない」が43.9%で最も高く、次いで「被害状況、避難の場所、物資の入手方法などがわからない」が30.4%となっている。

n=629

項目	人数	構成比
どのような災害が起こったのか、すぐにはわからない	176	28.0
救助を求めることができない	76	12.1
救助を求めても、来てくれる人がいない	110	17.5
安全なところまで、すぐに避難することができない	168	26.7
まわりの人々とのコミュニケーションがとれない	171	27.2
被害状況、避難の場所、物資の入手方法などがわからない	191	30.4
避難場所で十分な介助をしてくれる人がいない	58	9.2
必要な薬が手に入らない、治療を受けられない	276	43.9
補装具や日常生活用具が使えなくなる	41	6.5
障がいにあつた対応をしてくれる避難所が近くにない	106	16.9
その他	24	3.8
とくにない	70	11.1
わからない	100	15.9

NA=29

12 障がいに対する正しい理解の促進について

問31 あなたは、障がいのある方に対する市民の理解について、どのように感じていますか。

障害のある方に対する市民の理解についてどのように感じているかたずねたところ、「どちらともいえない」が33.9%と最も高く、次いで「あまり深まったとは思わない」が27.7%となっている。

項目	人数	構成比
かなり深まったと思う	20	3.2
ある程度深まったと思う	86	13.6
あまり深まったとは思わない	175	27.7
まったく深まったとは思わない	137	21.7
どちらともいえない	214	33.9
合計	632	100.0

NA=26

問 32 あなたは、障がいのある方に対する市民の理解が深まるために、今後どのようなことが必要だと思いますか。（おもなもの3つ以内に○）

障がいのある方に対する市民の理解が深まるために、今後どのようなことが必要だと思うかたずねたところ、「教育の充実」が39.8%と最も高く、次いで「とくにない」が30.8%となっている。

n=608

項目	人数	構成比
教育の充実	242	39.8
「障害者週間記念事業」などのイベントの充実	95	15.6
スポーツ・レクリエーション・文化活動などの場の充実	105	17.3
福祉出前講座や講演会の開催	134	22.0
ボランティアの育成	143	23.5
その他	62	10.2
とくにない	187	30.8

NA=50

問 33 あなたは、平成28年4月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が施行されたことを、知っていましたか。

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が施行されたことの認知をたずねたところ、「知らない」が81.2%、「知っている」が18.8%となっている。

項目	人数	構成比
知っている	103	16.2
知らない	533	83.8
合計	636	100.0

NA=22

問 34 あなたは、障がいを理由として、差別を受けたと思ったこと、悲しく嫌な思いをしたことがありますか。

障がいを理由として、差別を受けたと思ったこと、悲しく嫌な思いをしたことがあるかたずねたところ、「時々ある」が34.8%と最も高く、次いで「まったくない」が31.1%となっている。

項目	人数	構成比
よくある	91	14.4
時々ある	220	34.8
ほとんどない	125	19.7
まったくない	197	31.1
合計	633	100.0

NA=25

【問 34 で、1 から 3 を選択した場合に、お答えください。】

問 34-1 それはどのようなことや場面でしたか。(あてはまるすべてに○)

問 34 で「よくある」「時々ある」「ほとんどない」と回答した方に対し、どのようなことや場面でそのように思ったかをたずねたところ、「いやなことをいわれた」が69.7%で最も高く、次いで「じろじろ見られた」が35.3%となっている。

n=402

項目	人数	構成比
いやなことを言われた	280	69.7
仲間はずれにされた	111	27.6
じろじろ見られた	142	35.3
暴力をふるわれた	30	7.5
施設の利用や交通機関への乗車拒否をされた	17	4.2
住まいを探すとき	31	7.7
その他	76	18.9

NA=34

問 35 あなたは、障がいのために支援を受けたいような場合でも、精神障害者保健福祉手帳を持っていることや、病気等のことを、周りの人に伝えなかったことがありますか。

障がいのために支援を受けたいような場合でも、精神障害者保健福祉手帳を持っていることや、病気等のことを、周りの人に伝えなかったことがあるかたずねたところ、「ある」が 31.3%で最も高く、次いで「ない」が 24.8%となっている。

項目	人数	構成比
ある	197	31.3
時々ある	142	22.5
ほとんどない	135	21.4
ない	156	24.8
合計	630	100.0

NA=28

【問 35 で、1 または 2 を選択した場合に、お答えください。】

問 35-1 精神障害者保健福祉手帳を持っていることや、病気があることを伝えなかった（または伝えられなかった）理由には、どのようなものがありますか。（あてはまるすべてに○）

精神障害者保健福祉手帳を持っていることや、病気があることを伝えなかった（または伝えられなかった）理由についてたずねたところ、「差別や偏見を受けるから」が 61.0%と最も高く、次いで「周囲の目が気になるから」が 58.5%となっている。

n=328

項目	人数	構成比
差別や偏見を受けるから	200	61.0
周囲の目が気になるから	192	58.5
家族の意向があるから	14	4.3
伝えても理解してもらえないから	163	49.7
とくに伝える必要がないから	75	22.9
その他	14	4.3

NA=11

13 将来のことや障がい者施策への要望について

問 36 あなたは、今後どのように暮らしたいですか。

今後どのように暮らしたいかたずねたところ、「今の場所で、引き続き暮らしたい」が59.4%と最も高く、次いで「わからない」が12.2%となっている。

項目	人数	構成比
今の場所で、引き続き暮らしたい	376	59.4
独立してひとりで暮らしたい	71	11.2
グループホーム等で仲間と一緒に暮らしたい	19	3
施設に通所しながら、在宅で暮らしたい	33	5.2
施設に入りたい	14	2.2
病院に入院したい	2	0.3
その他	41	6.5
わからない	77	12.2
合計	633	100.0

NA=25

問37 あなたは、今後、障がいのある方への施策について、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(おもなもの3つ以内に○)

今後、障がいのある方への施策について、市はどのようなことに力を入れるべきかたずねたところ、「障がいのある方の各種手当の充実、医療費の軽減」が34.4%と最も高く、次いで「一般企業における障がいのある方の雇用の促進」が31.0%となっている。

n=564

項目	人数	構成比
障がいのある方への理解を深める福祉教育や広報活動の充実	168	29.8
在宅福祉サービスの充実	73	12.9
入所施設の整備	58	10.3
民間賃貸住宅への入居に関するサポートや支援	95	16.8
一般企業における障がいのある方の雇用の促進	175	31.0
就労支援事業所や地域活動支援センターなどの就労の場の確保	95	16.8
総合的な相談や日常生活等の訓練を行う事業の充実	50	8.9
障がいのある方向け公営住宅の拡充	94	16.7
道路、公共施設などを障がいのある方が利用しやすいものに改善、整備する	17	3.0
障がいのある方の各種手当の充実、医療費の軽減	194	34.4
点字、手話などによる障がいのある方への情報提供の充実	5	0.9
スポーツ、レクリエーション、文化活動に参加しやすい環境の整備	32	5.7
福祉機器など障がいのある方の生活を支援する機器の開発	6	1.1
言語機能や機能訓練等の専門的な早期訓練の充実	10	1.8
災害時、緊急時の情報提供及び避難誘導対策の充実	47	8.3
交通安全対策の充実	14	2.5
除雪対策の充実	59	10.5
鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性の向上	76	13.5
相談に応じてくれるボランティアやピア・サポート活動への支援	68	12.1
仲間同士で交流できる憩いの場の充実	55	9.8
重度障がいに対応した医療的ケアが受けられる環境の整備	20	3.5
その他	20	3.5

NA=94

障がい者アンケート（D）一般市民

1 回答者自身のことについて

問1 あなたの年齢を、お答えください。

回答者に年齢をたずねたところ、「70～79歳」が22.0%で最も高く、次いで「60～69歳」が20.7%となっている。

項目	人数	構成比
10～19歳	12	1.3
20～29歳	49	5.4
30～39歳	86	9.5
40～49歳	125	13.8
50～59歳	139	15.4
60～69歳	187	20.7
70～79歳	199	22.0
80～89歳	86	9.5
90～99歳	21	2.3
合計	904	100.0

NA=5

問2 あなたの性別を、お答えください。

回答者に性別をたずねたところ、「男性」が59.6%、「女性」が40.4%となっている。

項目	人数	構成比
男性	366	40.4
女性	539	59.6
合計	905	100.0

NA=4

2 障がいのある方との関わりなどについて

問3 平成31年3月末現在で、旭川市には、身体障害者手帳の所持者が17,317人、療育手帳（知的障がいに関する手帳）の所持者が4,190人、精神障害者保健福祉手帳の所持者が3,014人いらっしゃいます。

あなたは日頃、障がいのある方との交流がありますか。

日頃、障がいのある方との交流があるかたずねたところ、「交流する機会はほとんどない」が33.7%と最も高く、次いで「見かける程度で交流はあまりない」が25.2%となっている。

項目	人数	構成比
交流する機会が多い	185	20.6
たまに交流がある	184	20.5
見かける程度で交流はあまりない	226	25.2
交流する機会はほとんどない	302	33.7
合計	897	100.0

NA=12

【問3で1または2を選択した場合に、お答えください。】

問3-1 交流している障がいのある方とは、どのような関係ですか。

交流している障がいのある方とは、どのような関係かたずねたところ、「家族や親せきとして」が52.9%と最も高く、次いで「知人・友人として」が17.8%となっている（その他を除く）。

n=365

項目	人数	構成比
家族や親せきとして	193	52.9
学校や職場の同僚として	56	15.3
知人・友人として	65	17.8
町内会など地域活動で	14	3.8
参加する文化・スポーツ活動で	15	4.1
その他	90	24.7

NA=4

問4 あなたは、障がいのある方の福祉に関心がありますか。

障がいのある方の福祉に関心があるかたずねたところ、「ある程度関心がある」が53.9%と最も高く、次いで「あまり関心がない」が27.4%となっている。

項目	人数	構成比
非常に関心がある	128	14.6
ある程度関心がある	472	53.9
あまり関心がない	240	27.4
関心がない	36	4.1
合計	876	100.0

NA=33

【問4で1または2を選択した場合に、お答えください。】

問4-1 どのような理由から関心を持つようになりましたか。(あてはまるすべてに○)

問4で「非常に関心がある」「ある程度関心がある」と答えた方に、その理由をたずねたところ、「家族や親せき・友人に障がいのある方がいるため」が45.2%と最も高く、次いで「テレビや新聞等で障がいのある方に関するニュースを見たり聞いたりするから」が37.3%となっている。

n=592

項目	人数	構成比
自分自身に不自由な部分があるため	92	15.5
家族や親せき・友人に障がいのある方がいるため	269	45.2
仕事や趣味等で障がいのある方と接する機会があるため	154	25.9
テレビや新聞等で障がいのある方に関するニュースを見たり聞いたりするから	222	37.3
市の広報誌で障がいのある方に関する記事を目にするから	52	8.7
以前から福祉全般について関心をもっているから	91	15.3
その他	40	6.7

NA=8

問5 旭川市において、障害福祉サービス事業所は、年々増えておりますが、障がいの重度化が進んでいることや、少子化にもかかわらず支援を要する子どもが増加傾向にあるなど、多様な福祉サービスが求められています。

あなたは、旭川市における近年の障がい者福祉の状況をどのように認識していますか。

本市における近年の障がい者福祉の状況をどのように認識しているかたずねたところ、「わからない」が41.6%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が21.2%となっている。

項目	人数	構成比
かなり充実してきた	42	4.8
やや充実してきた	159	18.2
どちらともいえない	186	21.2
それほど充実していない	107	12.2
全然充実していない	18	2.1
わからない	364	41.6
合計	876	100.0

問6 あなたは、ボランティア活動に関心がありますか。

ボランティア活動への関心をたずねたところ、「ある程度関心がある」が51.3%と最も高く、「あまり関心がない」が33.0%となっている。

項目	人数	構成比
非常に関心がある	49	5.6
ある程度関心がある	452	51.3
あまり関心がない	291	33.0
関心がない	89	10.1
合計	881	100.0

NA=28

問7 あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。

ボランティア活動の経験の有無をたずねたところ、「ある」が30.1%、「ない」が69.9%となっている。

項目	人数	構成比
ある	266	30.1
ない	619	69.9
合計	885	100.0

NA=24

【問7で2を選択した場合に、お答えください。】

問7-1 ボランティア活動について、どのようにお考えですか。(あてはまるすべてに○)

ボランティア活動の経験が「ない」と答えた方に対し、考えをたずねたところ、「活動したい身持ちはあるが、健康に自信がない」が34.8%と最も高く、「活動したい気持ちはあるが、時間的に余裕がない」が34.6%となっている。

n=604

項目	人数	構成比
活動したい気持ちはあるが、活動するための情報が少ない	119	19.7
活動したい気持ちはあるが、時間的に余裕がない	209	34.6
活動したい身持ちはあるが、健康に自信がない	210	34.8
ボランティア活動に興味がない	35	5.8
行政や福祉団体等がやるべきだと思う	22	3.6
特に考えたことがない	123	20.4
その他	33	5.5

NA=15

問8 障がいのある方の見守りや外出支援などの福祉サービスの一部を、ボランティア（地域住民）で担う考え方があります。あなたは、この方向性についてどのように考えますか。

福祉サービスの一部を、ボランティア（地域住民）で担うという方向性についてたずねたところ、「ある程度進めていくべきである」が37.6%と最も高く、次いで「どちらもいえない」が25.4%となっている。

項目	人数	構成比
積極的に取り組んでいくべきである	155	17.4
ある程度進めていくべきである	342	37.6
どちらもいえない	226	25.4
どちらかといえば進めるべきではない	31	3.5
公的サービスを優先すべきなので反対である	52	5.8
わからない	84	9.4
合計	890	100.0

NA=19

3 ノーマライゼーションの理念などについて

問9 障がいのある人もない人も共に生活するノーマライゼーションの理念により、障がいのある方の自立や社会参加への意識が高まっています。

あなたは、障がいのある方の活動の場の広がりについて、どのように認識していますか。

障がいのある方の活動の場の広がりについて、どのように認識しているかたずねたところ、「一部について広がってきている」が26.0%で最も高く、次いで「あまり広がっていない」が25.1%となっている。

項目	人数	構成比
全般的に広がってきている	53	6.0
一部について広がってきている	232	26.0
どちらも言えない	148	16.6
あまり広がっていない	224	25.1
全然広がっていない	36	4.0
わからない	199	22.3
合計	892	100.0

NA=17

問10 教育に関して、国は障がいのある児童と障がいのない児童とが共に学ぶ「インクルーシブ教育」の推進を目指しています。あなたは、この「インクルーシブ教育」という言葉を御存知ですか。

「インクルーシブ教育」という言葉の認知をたずねたところ、「言葉も意味も知らない」が67.1%と最も高く、次いで「言葉は知らないが意味は知っている」が16.0%となっている。

項目	人数	構成比
言葉も意味を知っている	84	9.4
言葉は知らないが意味は知っている	143	16.0
言葉のみ知っている	67	7.5
言葉も意味も知らない	600	67.1
合計	894	100.0

NA=15

問11 公共的な施設は、段差の解消などにより、障がいのある方のみならず全ての方が利用しやすいことが望めます。あなたは、本市における公立施設のバリアフリーの状況を、どのように認識していますか。

本市における公立施設のバリアフリーの状況に対する認識をたずねたところ、「まだ不十分なところが多い」が39.5%と最も高く、次いで「課題はあるがほぼ整備されている」が18.3%となっている。

項目	人数	構成比
全般的に整備されている	21	2.3
課題はあるがほぼ整備されている	164	18.3
どちらもいえない	122	13.6
まだ不十分なところが多い	353	39.5
全般的に不十分である	72	8.1
わからない	162	18.1
合計	894	100.0

NA=15

問12 続いて、あなたは民間施設のバリアフリーの状況を、どのように認識していますか。

民間施設のバリアフリーの状況に対する認識をたずねたところ、「まだ不十分なところが多い」が41.6%と最も高く、次いで「わからない」が17.3%となっている。

項目	人数	構成比
全般的に整備されている	15	1.7
課題はあるがほぼ整備されている	88	9.8
どちらもいえない	137	15.3
まだ不十分なところが多い	373	41.6
全般的に不十分である	128	14.3
わからない	155	17.3
合計	896	100.0

NA=13

4 障がいのある方への配慮について

問13 あなたは、日常（例：買物、飲食、病院、金融機関、行政手続など）で利用するサービスにおける障がいのある方への配慮について、どのような印象がありますか。

日常で利用するサービスにおける障がいのある方への配慮について、どのような印象をもっているかたずねたところ、「最低限の配慮がされている」が35.4%と最も高く、次いで「どちらも特に感じたことはない」が28.9%となっている。

項目	人数	構成比
おおむね配慮がされている	58	6.6
最低限の配慮がされている	314	35.4
どちらも特に感じたことはない	258	28.9
あまり配慮されていない	223	25.0
ほとんど配慮されていない	37	4.2
合計	890	100.0

NA=19

問14 あなたは、地域や職場、外出先等において、障がいのある方から求められたことなどにより、その方の障がいの特性（視覚障がい・聴覚障がい・肢体不自由・知的障がいなど）に応じた支援を行ったという経験をお持ちですか。

地域や職場、外出先等において、障がいのある方から求められたことなどにより、その方の障がいの特性に応じた支援を行った経験の有無についてたずねたところ、「席を譲った」が36.3%と最も高く、次いで「特にない」が37.2%となっている。

n=874

項目	人数	構成比
荷物を代わりに持った	164	18.8
席を譲った	317	36.3
階段昇降や道路横断の時に手をかした	155	17.7
車いすを押したり持ち上げるのを手伝った	243	27.8
様子を見にいたり声をかけた	142	16.2
訪問したり話し相手になった	74	8.5
買物を代わりにしたり病院などで薬をもらってきた	43	4.9
食事や総菜などを持って行った	32	3.7
掃除や洗濯を手伝った	44	5.0
車で送り迎えをするなど外出の手助けをした	93	10.6
難聴者や言葉の不自由な方に代わって電話をかけた	31	3.5
視覚障がいのある方や知的障がいのある方のために書類を読んだり代筆した	47	5.4
その他	44	5.0
特にない	325	37.2

問 15 あなたは、身近な社会に障がいのある方に対する差別や偏見があると思いますか。

近な社会に障がいのある方に対する差別や偏見があると思うかたずねたところ、「多少はある」が 55.4%と最も高く、次いで「大いにある」が 18.2%となっている。

項目	人数	構成比
大いにある	163	18.2
多少はある	495	55.4
ない	133	14.9
わからない	103	11.5
合計	894	100.0

NA=15

問 16 あなたは、平成 28 年 4 月から「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が施行されたことを、知っていましたか。

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が施行されたことの認知をたずねたところ、「知らない」が 79.8%、「知っている」が 20.2%となっている。

項目	人数	構成比
知っている	179	20.2
知らない	708	79.8
合計	887	100.0

NA=22

5 障がいのある方への施策に関する取組について

問17 あなたは、障がいのある方に対する理解を促進するために、どのような取組が必要だと思いますか。(おもなもの3つ以内に○)

障がいのある方に対する理解を促進するために、どのような取組が必要だと思うかたずねたところ、「障がいのある児童生徒とない生徒が相互理解を深める交流教育を促進する」が44.6%と最も高く、次いで「子どもに対する福祉教育に力を入れる」が40.7%となっている。

n=843

項目	人数	構成比
子どもに対する福祉教育に力を入れる	343	40.7
障がいのある児童生徒とない生徒が相互理解を深める交流教育を促進する	376	44.6
市民対象の福祉講座や講演会を開催する	60	7.1
スポーツ・レクリエーション・文化活動など通じて障がいのある方とない方とのふれあいの機会を増やす	340	40.3
障がい者団体の活動をPRする	142	16.8
障がいのある方に対するボランティア活動を育成・支援する	214	25.4
地域において障害のある方とない方との交流を深めるイベントを実施する	149	17.7
市の広報誌で障がいのある方への理解を深めるための広報を推進する	144	17.1
テレビ・新聞等マスメディアに障がいのある方への理解を深めるための報道を依頼する	142	16.8
市の職員に対して研修を実施する	133	15.8
その他	22	2.6
特になし	49	5.8

NA=66

問18 障がいのある方が地域で安心して生活することができるために、あなたは、行政がどのようなことをするべきだと思いますか。(おもなもの3つ以内に○)

障がいのある方が地域で安心して生活することができるために、あなたは、行政がどのようなことをするべきだと思うかたずねたところ、「障がい者雇用の促進や就労支援の充実」が31.7%と最も高く、次いで「身近な相談支援体制の構築」が28.4%となっている。

n=835

項目	人数	構成比
身近な相談支援体制の構築	237	28.4
ホームヘルプ・ショートステイなど在宅サービスの充実	136	16.3
入所施設の拡大	158	18.9
障がい児教育・保育等の充実	144	17.2
福祉専門職等の人材の育成・確保	206	24.7
福祉用具の研究開発の推進	30	3.6
医療機関やリハビリ機関の充実	82	9.8
障がいおよび難病の早期発見・早期治療の推進	107	12.8
インクルーシブ教育システムの構築	78	9.3
文化芸術活動・スポーツ等の推進	29	3.5
障がい者雇用の促進や就労支援の充実	265	31.7
年金など経済的支援の充実	149	17.8
公営施設・グループホームなど住まいの場の確保	104	12.5
公共施設・交通機関等のバリアフリー化の推進	108	12.9
福祉に関する情報提供の充実	76	9.1
意思疎通支援の充実	48	5.7
防災・防犯対策の推進	38	4.6
障がい者差別の解消や権利擁護の推進	77	9.2
障がいに関する理解啓発や交流の促進	59	7.1
ボランティア活動の推進や地域における支え合いの機能を充実させるための体制づくり	77	9.2
その他	14	1.7
特になし	28	3.4

NA=74